令和3年度

研　究　集　録

北海道ＰＴＡ連合会

「研究集録の発刊にあたって」

北海道ＰＴＡ連合会
会 長 菊 川 哲 平

日頃より北海道 PTA 連合会の活動にご理解そして多くのご支援をいただいております単位 PTA 会員の皆様方、そして北海道教育委員会をはじめとする教育関係団体の皆様方に、心より感謝とお礼を申し上げます。

私たち北海道 PTA 連合会は、全道 178 市町村・1233 単位 PTA 全ての活動が基盤となり、この北海道の広い大地において子どもたちの健やかな成長を見守る事が、いつまでも変わらず活動のテーマとなっております。そして、この私たちの活動に加え各教育関係団体に支援していただくことによりさらなる充実した活動へと結びついております。何卒、皆様方には引き続き今まで以上に温かいご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、私たちの活動の軸となるものは「子どもたちを想いそして共に学ぶこと」この 1 本の柱から多くの繋がりや学び、そして沢山の出会いを通じて子育ての充実を進める活動を行っております。本年度も様々な社会状況の中で活動を行う上で戸惑いを感じながらでも、これまでの活動を振り返り、今できることを考え取り組んでこられたと思います。子どもたちを想い、様々な工夫を凝らし活動してこられた中で、当たり前が当たり前ではないと考えさせられ、出来ることへの有難さを感じ、その中で大切なものを改めて知ることもできたのではないでしょうか。どんな状況下でも私たちは前を向く力を忘れることなく、そして全ての子どもたちにとって毎日が大切であるように、保護者である私たちも、子どもたちと同様に毎日を大切にして行けたらと考えます。

北海道PTA連合会といたしましては、北海道ブロック研究大会や各地区研究大会、また、多くの諸会議を通じて現状の教育環境の課題や情報共有、北海道の各地区がそれぞれ行っている特色ある活動を通じ、会員皆様が各地域・学校において活用のヒントになるべく情報発信を行ってまいりました。本年度は残念ながら北海道ブロック研究大会は、感染症蔓延防止を考え中止という判断をさせていただきましたが、それでも多くの地区において研究大会を様々な形式やツールを用いて開催していただいたことに皆様の「活力」と「想う力」に心から感謝を申し上げますとともに、全道の理事様や子育て委員の皆様、そして各地区役員の皆様には各会議において多くの意見や、様々な情報を提供していただいたことに改めて感謝を申し上げます。

本誌「研究集録」は、昨年同様に各活動数が限られておりますが、この状況においても北海道内の各地域が工夫を凝らして今できることを、これからも歩みを止めない活動を実践している PTA 活動の報告でもあります。今後とも未来ある子どもたちの笑顔のために、私たちが継続し活動する事が必要であり、今後の情勢を見極めながら PTA 研究大会や広報活動研修会、そして各地区での特色ある活動を支援しながら、子どもたちの健やかな成長のため、そして私たち大人も子どもと共に学び成長していくための手助けになる大切な場所を提供していければと思っております。

結びになりますが、本研究集録の編集及び作成にあたりご尽力を賜りました地区事務局長の皆様、教師代表の皆様方に、心からの感謝とお礼を申し上げます。

また、多大なるご支援・ご協力を賜っております教育関係団体の皆様に重ねて感謝とお礼を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

目　　次

研究集録の発刊にあたって・・・・北海道ＰＴＡ連合会　会長　　菊　川　哲　平

Ⅰ．令和３年度北海道ＰＴＡ連合会活動の基本方針と目標・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ．研究推進計画の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Ⅲ．委員会の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　○委員会構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　１．組織・連携委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　２．教育・環境委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
　３．子育て委員会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　　※資料　令和３年度子育て委員会の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
Ⅳ．地区研究大会の成果と今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　１．運営面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　２．研究内容面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　３．地区研究大会の実施状況と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　※資料　地区研究大会講師一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
Ⅴ．地区子育て研修会の成果と今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　１．研修会の運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　２．研修会の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
　３．地区子育て研修会の実施状況と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
　　※資料　子育て研修会講師一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
Ⅵ．第 68 回日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会 ・・・・・・・・・・32
Ⅶ．北海道ブロック教育講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
Ⅷ．北海道の特色ある実践事例発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
Ⅸ．ブロック連絡会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
Ⅹ．広報活動研修会・全道広報紙コンクール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
◎巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
◎編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

表紙：岩見沢の百餅（ひゃっぺい）祭り

※（　）の様に表記していることがあります。
日本ＰＴＡ全国協議会（日Ｐ）　　北海道ＰＴＡ連合会（道Ｐ連、道Ｐ）
地区ＰＴＡ連合会（地区Ｐ連、地区Ｐ、　稚内市は地区連Ｐ）
市町村ＰＴＡ連合会（市町村Ｐ連）　　単位ＰＴＡ（単Ｐ）

Ⅰ　令和３年度北海道ＰＴＡ連合会　活動の基本方針と目標

１．基本方針

私たちは、夢・未来を拓く子どもたちの幸せのために、何ができるか、何をしなければならないかをよく考え判断し行動することが求められます。また、子どもたちの健全な成長のためには、大人が自ら学び、子どもに範となる行動を示していくことが大切です。それらの点を踏まえ、次の３点を基本方針として活動を推進します。

（１）会員の研修活動の充実をとおし､お互い高め合うとともに家庭教育力の充実を図り、豊かな心をもった子どもの育成に努めます。

（２）本道の教育振興のために、地区ＰＴＡ連合会と緊密な連携を図り、道Ｐ連事業の充実と教育課題の解決に努めます。

（３）家庭・学校・地域そして行政との連携・協働を進め、子どもたちを取り巻く教育・生活環境の改善に努めます。

少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展等、今日の社会環境はめまぐるしく変化しています。そのことに伴い、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、新たな問題も起きています。そのような中で、私たちは、子どもたちが安心して生活できる環境、子どもたちを安心して育てられる環境づくりのために、責任をもって活動していくことが求められます。

２．基本目標

北海道ＰＴＡ連合会基本目標

（１）保護者と教師が信頼を深め合い、地域や行政との連携協力を強化し、生涯学習社会を推進する、開かれたＰＴＡを目指します。

（２）家庭・学校・地域・行政が結び合い、命を大切にし、豊かな人間性とよりよく生きる力を育むＰＴＡの活動を展開します。

（３）ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着や自然環境の保護と食育に目を向けた家庭や地域づくりを実践するＰＴＡを目指します。

３．重点目標

（１）研修活動の充実

①生涯学習と結びついたＰＴＡの研修活動の充実に努めます。

②ＰＴＡ活動を活性化するための委員会活動や広報活動の充実に努めます。

③道ブロック研究大会や地区Ｐ連研究大会等、各種研修会の充実に努めます。

（２）教育環境の充実

①会員の要望を把握し、教育行政に反映するなどして望ましい教育環境づくりを進めます。

②児童・生徒の実態の把握に努め、児童・生徒を取り巻く生活環境の浄化に努めます。

③大人が子どもたちの範となる行動を示し、子どもたちから尊敬される大人となるように努めます。

（３）青少年の健全育成の推進

①家庭・学校・地域・行政等と連携を強め、家庭及び地域の教育力の向上に努めます。

②ネット利用を含めた望ましい生活習慣の定着と食事の大切さを伝える活動を推進します。

（４）人権・人命尊重と安全教育の推進

①いじめ等の問題解決に積極的に取り組み、人権や生命を尊重する心を育てます。

②家庭・学校・地域・行政が連携協力して、安全確保と事故防止の活動に取り組みます。

（５）委員会活動の活性化

①委員会活動を通し、各地区の交流を図るとともに、今日的課題の解決に向けた先進的な取組を紹介し、単位ＰＴＡ等の活動の活性化を促すように努めます。

②会報やホームページの改良に努め、広報活動の充実を通し、ＰＴＡ活動の活性化に努めます。

（６）ＰＴＡ安全互助会の普及

①道Ｐ連事業としてのＰＴＡ安全互助会の意義の周知に努め加入促進に努めます。

４．具体的な活動

視点	具体的な内容
自ら学ぶ ＰＴＡ	① 子どもたちを取り巻く実態把握に努め、ＰＴＡとしてできることを熟慮し、主体的に研修を深め諸課題の解決が図られるように努力します。 ② 大人が子どもたちに範を示すことができるよう、大人は自ら研鑽を積み、人間的成長が図られるように努めます。 ③ 家庭・学校・地域・行政の役割と連携のあり方について研修を深め、子どもたちの健全な成長に向けどのように行動すべきか明らかにすることに努めます。 ④ 広報活動の活性化と効果的な情報の収集・発信を図るための研修を深めます。
自ら行動する ＰＴＡ	① ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着のために取組を推進します。 ② 家庭･学校･地域・行政・関係機関と連携し、地域ぐるみの子育てを推進します。 ③ いじめや不登校等の実態把握に努めその解消に向け積極的な議論に努めます。 ④ 地域や学校等と連携し子どもたちの安全を確保し事故から守る活動を推進します。 ⑤ 地域の教育環境の整備や有害情報等の浄化についての活動を推進します。 ⑥ 地域の学校教育活動への積極的な支援を推進します。 ⑦ 道内の実態や傾向等を的確に捉え、タイムリーな情報の発信に努めます。

第１回地区事務局長会議　7/3

第１回 役 員 会 7/3

Ⅱ　研究推進計画の全体構想　（令和３年度）

基本目標

１．保護者と教師が信頼を深め合い、地域や行政との連携協力を強化し、生涯学習社会を推進する、開かれたＰＴＡを目指します。

２．家庭・学校・地域・行政が結び合い、命を大切にし、豊かな人間性とよりよく生きる力を育むＰＴＡの活動を展開します。

３．ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着や自然環境の保護と食育に目を向けた家庭や地域づくりを実践するＰＴＡを目指します。

重点目標

１．研修活動の充実　　２．教育環境の充実

３．青少年の健全育成の推進　　４．人権・人命尊重と安全教育の推進

５．委員会活動の活性化　　６．ＰＴＡ安全互助会の普及

具体的な活動

①　子どもたちを取り巻く実態把握に努め、ＰＴＡとしてできることを熟慮し、主体的に研修を深め諸課題の解決が図られるように努力します。

②　大人が子どもたちに範を示すことができるよう大人は自ら研鑽を積み人間的成長が図られるように努めます。

③　家庭・学校・地域・行政の役割と連携のあり方について研修を深め、子どもたちの健全な成長に向けどのように行動すべきか明らかにすることに努めます。

④　広報活動の活性化と効果的な情報の収集・発信を図るための研修を深めます。

⑤　ネット利用も含めた子どもの望ましい生活習慣の定着のために取組を推進します。

⑥　家庭･学校･地域・行政・関係機関と連携し、地域ぐるみの子育てを推進します。

⑦　いじめや不登校等の実態把握に努め、その解消に向け積極的な議論に努めます。

⑧　地域や学校等と連携し子どもたちの安全を確保し事故から守る活動を推進します。

⑨　地域の教育環境の整備や有害情報等の浄化についての活動を推進します。

⑩　地域の学校教育活動への積極的な支援を推進します。

⑪　道内の実態や傾向等を的確に捉え、タイムリーな情報の発信に努めます。

組織・連携委員会

＜研究テーマ＞

「ともに学び・行動し・連携するＰＴＡ活動と活性化のための組織のあり方」

＜研究内容＞

Ｐ５～６　　参照

教育・環境委員会

＜研究テーマ＞

「子どもとともに　大人も学び合い　心豊かな共育を目指して」～子どものために、大人がどう行動するか～

＜研究内容＞

Ｐ７～８　　参照

子育て委員会

＜全道統一スローガン＞

「今　こころ輝いて 親として 人として」

＜研究テーマ＞

「豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方」

＜研究内容＞

Ｐ９～１１　　参照

地区ＰＴＡ研究大会・子育て研修会・北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会・日Ｐ研究大会北九州大会

Ⅲ　委員会の活動

委員会は、北海道ＰＴＡ連合会の基本方針・基本目標を受けた重点目標の１番目にある研修活動の充実を図る上で中心となるものである。組織・連携委員会、教育・環境委員会、子育て委員会の３委員会体制で業務推進に当たっている。組織・連携委員会は、組織の在り方や他団体や地域との連携、親が学びを深める研修活動等に関すること。教育・環境委員会は、子どもに関する教育課題の解決、子どもを取り巻く教育、生活環境の整備等に関すること。子育て委員会は、しつけ、食育、健康等、子育てに係る日常実践の交流、研修会の企画・運営、子育てに関する情報の収集・発信等を中心に活動してきた。

第１回目は、各委員会で委員会活動の意義の理解や活動計画など本年度の活動の方向性を確認、第２回目は、研究内容に基づく研究協議、第３回目は今年度のまとめや次年度研究の方向性について協議した。今年から年３回になった子育て委員会では、令和７年度の北海道ブロック研究大会での提言を見据えた計画も協議した。更に例年行われている広報活動の一環として、ホームページへの投稿体験も行った。

今年度もコロナ禍での開催を想定し、感染リスクを回避し安全に配慮した「オンライン配信やハイブリット型」など、工夫された取り組みについて報告があった。今後も委員会活動の充実を図り、研究成果を各種媒体により、情報提供をしていくことが大切である。

【 令和３年度　委員会構成 】

（敬称略）

【組　織・連　携　委　員　会】

委員長　後　藤　一　樹（副会長・石狩）
副委員長　金　田　貴　彦（副会長・南空知）　小　森　　享（副会長・道中校長会）
教師代表　鈴　木　喜代志（小樽市立桂岡小学校長）
委　　員　・廣瀬　堅一（小樽市）　・安藤　英樹（旭川市）　・佐藤　政裕（上川北部）
・佐藤　敦宏（渡島）　・谷田　　司（胆振西部）　・田村　綾太（日高）
・佐藤　孝洋（オホーツク東部）　・伊藤　　篤（オホーツク西部）
・辻本二三人（十勝）　・坪井　智裕（釧路）

【教　育・環　境　委　員　会】

委員長　干　山　　毅（副会長・函館市）
副委員長　寺　本　哲　也（副会長・宗谷）　吉　田　　哲（副会長・オホーツク中部）
山　村　健　史（副会長・道小校長会）
教師代表　東　　祐　史（恵庭市立柏小学校長）
委　　員　・須藤　孝明（石狩）　・佐々木智一（上川南部）　・新名　功基（留萌）
・白川　哲也（稚内市）　・倉持　　篤（檜山）　・中野　善隆（北空知）
・髙橋　憲司（胆振東部）　・谷保　寿彦（帯広市）　・濱口　憲太（釧路市）
・富田　康隆（根室）

【子　育　て　委　員　会】

委員長　街　道　美　恵（副会長・石狩）
子育て副委員長　京　谷　明　希（函館市）
広報担当副委員長　成　田　宏　介（副会長・後志）
教師代表　安　部　由里香（千歳市立泉沢小学校長）
委　　員
・池上千世乃（小樽市）　・本間由紀子（後志）　・佐々木奈穂子（上川北部）　・冨樫真紀子（旭川市）
・福山　萌子（上川南部）　・山口　莉菜（稚内市）　・小川　香織（宗谷）　・鳥羽志津子（留萌）
・堀　　俊至（渡島）　・山本　美雪（檜山）　・高畠　康典（南空知）　・茶山友紀子（北空知）
・村田　美香（胆振東部）　・西崎　里美（胆振西部）・斉藤小津恵（日高）
・山崎　七恵（オホーツク東部）　・石川　勝義（オホーツク中部）　・大西　晋吾（オホーツク西部）
・松本　浩子（帯広市）　・水間　幸市（十勝）　・金田ひとみ（釧路市）　・今井　亮輔（釧路）
・樫見真奈美（根室）

１．　組織・連携委員会の取組

(1)　活動計画

①　研究テーマ

『ともに学び、行動し、連携するＰＴＡ活動や組織の在り方』

②　研究テーマ設定の理由

現在、わが国は、少子高齢化や人口減少などの社会構造の変化や人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化などによる急速な変化を迎えており、社会において必要とされる資質・能力が変化するなど、将来を担う子どもたちが生きる未来は、予測困難な時代となっている。

このような時代にあって、子どもたちには、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されているところである。

そのため、学校教育においては、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新しい価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このことは、これまでも「生きる力」の育成として学校教育において目指してきたところであるが、子どもたちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおりの学校の工夫だけにその実現を委ねることが困難になってきている。

こうしたことからＰＴＡは、新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を踏まえ、将来、子どもが実社会で生き抜くための力を身に付けさせるために、学校と家庭、地域を実質的につなぎ、子どもは地域で育てる体制づくりの中心的な役割を担うことが必要である。そのため、①学校教育と密接な関連をもつ　②教職員と保護者が互いに学び合う　③相互の連携及び協力に努める　④成果を学校、家庭、地域に還元するなど、活動や組織としての在り方を研究する必要性を考え、上記のテーマを設定した。

③　研究の視点

研究テーマを追究するためには、委員会がこれまでの成果を踏まえ、各ＰＴＡ活動の推進に役立つ有効な情報を主体的に発信することが重要であることから、次の２つの視点に基づき活動を進める。

○　持続可能なＰＴＡ活動・組織
○　コロナ禍の中でのＰＴＡ活動

(2)　研究内容

昨年度、ＰＴＡ活動を取り巻く全道の現況について（コロナ禍の影響も可能な範囲で含めながら）情報交流・協議を行い、直面している課題等を整理･焦点化することができた。

そこで今年度は、その課題等の解決へ向け、上記２つの研究視点を踏まえ、次の４点を中心に研究協議を進める。

①　持続可能な子育て支援体制におけるＰＴＡ組織の在り方や活動の活性化へ向けた取組・改善策を引き続き探る。
②　コロナ禍におけるＰＴＡ活動の推進について探る。
③　今年度の道Ｐ南空知・岩見沢大会提言校との連携・協力を図る。
④　令和５年度の提言を視野に入れた研究の方向性を探る。

(3)　今年度の取組

３回にわたる委員会において、各委員の所属校や地区のＰＴＡの現状・取組等について交流をし、上記(2)研究内容（①～④）にかかわる協議を重ねた。以下に主な交流・協議内容を記す。

①　持続可能なＰＴＡ組織と改善策等

・　子どもたちの笑顔を応援できる体制・環境づくりを一層進める。
・　各校・各地区間での取組に差が出てきているが、ＰＴＡ活動の目的は一緒だという原点を忘れてはならない。できること、やれることから取り組み、会員自身が楽しいと感じる活動を工夫していく。一例として、できる範囲での登下校の見守り活動で成果

を上げている取組もある。

・　学校（教職員）の前向きな取組をＰが後押しする組織でありたい。

・　ＰとＴとの信頼関係の構築が持続可能なＰＴＡの土台となる。

・　会員数減は現実の課題で、組織の抜本的な改変が必要となっている。

・　次年度の役員体制づくりを年度内に進め、引き継ぎをしっかり行う。

・　小規模・複式校の統廃合に伴い、複数校のＰＴＡを一本化する方向で検討を始めた事例がある。

・　コミュニティ・スクールの機能を積極的に生かしていくことがますます求められる。

・　ＰＴＡ活動の推進に関して、教育委員会との懇談会の実施など、教育行政機関との連携を一層重視していく必要がある。

②　コロナ禍におけるＰＴＡ活動の推進

・　従来のＰＴＡ活動や学校行事等の中止・縮小など、全道的に負の影響が大きいのは確かである。地域のコミュニティとしての機能も果たしていた小中合同運動会を小学校単独で行わざるを得なかった事例もある。

・　ＰＴＡとしての学び・活動をとめないために、中止ありきではなく、どんな形ならできるのか考えていくことが大切。(子どもの笑顔と学びを支えるのが大人の責務)

・　単Ｐ・地区Ｐともに従来の組織体制や活動内容等を根本的に見直すいい機会とする。

・　活動の意義・目的等について、学校（職員）との共通理解を深め、具体の取組をＰとＴが知恵を絞ることによって相乗効果が生まれる。ＰＴＡ主体で、運動会観覧席を改善した事例もある。

・　学校や関係機関との連携をきめ細かく行い、感染対策を徹底しながら内容・方法等を工夫して活動を計画・実施していく。(オンラインでの会議・研修や授業参観、参加形態の工夫、会場の分散　等)

・　家庭のオンライン環境にかかわり、教育委員会・学校・ＰＴＡが連携した取組を進めることが望ましい。(タブレットの持ち帰り活用、経費の補助等)

・　ＰＴＡ予算について、ＰＴＡ活動はもとより、学校の教育活動におけるコロナ感染防止対策として無理のない範囲で有効に活用したい。

・　市Ｐ連として、新型コロナウイルスに対する活動指針等を作成し全体に示した。

・　ＩＣＴ機器の活用に堪能なＰＴＡの人材を発掘していくことも必要である。

・　感染への不安を抱く会員がいるのも当然である。参加への同調圧力が働かないように配慮すべきである。

③　北海道ブロック研究大会
南空知・岩見沢大会

大会は中止。道ブロック協議会主催「北海道の特色ある実践事例発表」で、旭川市立緑新小学校ＰＴＡがオンライン発表。

④　令和５年度の提言に向けて

今年度及び次年度の委員会での交流・協議を通して提言校を選出していく。

(4)　成果と課題

①　成果

ア　時代の変化や各地区・各単Ｐの実情を踏まえ、持続可能なＰＴＡ組織の体制づくりや運営等に関し、様々な工夫・改善を図る動きが始まっている。

イ　コロナ禍にあっても、オンラインを積極的に活用するなど、内容・方法等を工夫して活動する取組が進んでいる。

②　課題

前例踏襲ではなく、社会情勢や各地区・各単Ｐの実情に即したＰＴＡ活動の継続・改革・創造。

(5)　次年度の方向性

①　今年度の成果と課題を踏まえ、ウイズコロナでの挑戦・体験・学びを止めないＰＴＡ活動の推進、そしてポストコロナでの進化したＰＴＡの姿についてさらに究明していく。

④　現研究テーマ・視点・具体的な取組について継続研究とし深化を図る。

②　令和５年度札幌大会の提言について協議を継続し提言校の選出・発表依頼をする。

２．教育・環境委員会の取組

（1） 活動計画

① 研究テーマ

子どもとともに　大人も学び合い
心豊かな共育を目指して
～子どものために、大人がどう行動するか ～

② 研究の視点

本委員会は、今日的な教育課題やＰＴＡ活動に関わる問題点等のうち、子どもの教育、生活・教育環境等に関することをテーマとして研究・協議し、全道の研究や実践の指針を提供することをねらいとしている。

子どもの健やかな成長のためには、大人の立場から子どもたちを取り巻く環境を見取り、その課題を把握し、大人が手をつないで解決に向けた具体的な取組の推進に努力していくことが重要である。そのため、下記の研究内容について研究・協議を進めていく。

研究内容１「子どもの教育活動」

ア　生活習慣の改善を目指す活動

a 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進

b 生活リズムの確立

c あいさつ運動の推進

イ 心を育てる活動

a 自然や社会での体験活動

b 家庭や地域での活動

c たくましい心を育む活動

研究内容２「大人の環境整備活動」

ア 安心安全な地域づくり

イ 子どもを守り育てるための研修

ウ 子どもへの働きかけ

（2） 研究の内容

①前年度までの取組

平成３０年度に前テーマから１０年という節目を迎え、新たなテーマ「子どもとともに　大人も学び合い　心豊かな共育を目指して」を設定した。また、平成３０年度旭川大会研究大会では、スマホ・ネット利用について講師による講話と釧路市ＰＴＡ連合会から提言発表をしていただき、活発な研究協議、意見交流が行われた。そして、委員会では令和２年度函館大会に向けて研究内容１「子どもの教育活動」を重点に設定し、提言に向けた研究協議を進めてきた。

さらに、令和元年度は、次年度より小学校で全面実施される新学習指導要領に基づく教育も視野に入れ、「親の学びは子の学びの充実につながる」ことを共通認識し、「未来を生きる子どもたちに求められる力を育む家庭教育」について、各地区での研究活動の交流や新たな時代の教育について研究や交流を深めてきた。昨年度の日Ｐ北海道ブロック研究大会函館大会は、「大人の学校～夢・未来を拓く子どもたちのために　何をしなければならないか」について研究活動を行ってきた上川南部地区の富良野市ＰＴＡ連合会に提言を行っていただく予定であったが、大会が中止となったため、その扱いについて、検討を行ってきた。

② 今年度の具体的な活動

昨年度、函館大会で提言予定であった「富良野市立東小学校」の取組を、今年度、日Ｐ北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会・第二分科会「家庭教育」で提言を行っていただく予定であったが、岩見沢大会が中止となった。

また、今年度は、令和４年度の日Ｐ北海道ブロック研究大会北見大会の提言発表に向けて、重点的に研究を進めていくこととした。研究内容は「２ 大人の環境整備活動」であり、具体的には「安心安全な地域づくり」「子どもを守り育てるための研修」「子どもへの働きかけ」である。このテーマにかかわる実践を、それぞれの地区やブロックより持ち寄り、交流を行いながら、令和４年度の提言発表者を決定する。

ア　令和４年度日Ｐ北海道ブロック研究大会北見大会の提言発表に向けて、研究の具体を絞りこむ
（研究内容２「大人の環境整備」に関わって）

イ　各地区ＰＴＡの実践交流について
（令和４年度の提言発表を視野に入れた各地区の実践交流）

（3） 成果と課題

① 成　果

ア　令和３年度日Ｐ北海道ブロック研究大会岩見沢大会における提言の取り扱いについて

昨年度の本委員会の協議でキーワードとなっていた「親の学び」については今年度についても引き続き意見交換を行い、各地区ＰＴＡの取組の交流を重ねてきた。

今年度は、本委員会が令和元年度日Ｐ北海道ブロック研究大会函館大会で提言予定であった「富良野東小」の取組は保護者が学ぶ機会として大変良い実践であり、何らかの形で発表の場の設定を考え、令和３年度の日Ｐ北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会での第２分科会「家庭教育」で、改めて提言を行う予定としていた。しかし、本年度も研究大会が中止となったことから、発表の場を設定することができなかった。

今年度の委員会では、コロナ禍において、zoom 等を活用するなど、各地区では工夫した研修会の実践が多くみられるため、「コロナ禍においても行うことができるＰＴＡ動」を交流してきた。特に、「親の学び」を念頭に置いた協議や各地区ＰＴＡの取組を交流することができたのが成果と言える。

イ　令和４年度日Ｐ北海道ブロック研究大会における提言の構想について

これまでに本委員会における令和４年度の提言は「研究内容２　大人の環境整備活動」を研究の対象にすることを確認しており、コロナ禍における各地区・各単Ｐの取組を集約することとした。具体的には、コロナ禍においてもできる「大人の学び」についての活動の交流を通じて、各地区で模索している活動実践を提言として発表できるように準備を進めた。各地区での研究大会をもとに、提言実践を選定する。

ウ　各地区ＰＴＡの実践交流について

コロナ禍での各地区の研究大会や研修会の実施方法や委員会で話し合われた。実施可能なアイディアを全道のＰＴＡに紹介し、活動の参考としてもらった。地区Ｐでの工夫された活動・取組の交流は非常に有意義なものとなった。具体的には、コロナ禍を配慮し、集合型の講演会等を行う際には、参加人数を制限したり、別途 YouTube 配信などを併用し（ハイブリッド型）、集まる人数を少なくするが、インターネットで多くの方に参加してもらえるようにしたり、工夫をして開催することができた。これらは、「活動を止めないＰＴＡ」の在り方を検討していく上でも、有効な開催方法であった。また、集合型の講演会を開催した地区でも、会場の収容人数の半分に制限をして開催している。講師についても、現地に来ていただくのではなく、東京からオンラインで講演を行うことも可能であった。オンラインでの配信では、当日だけではなく、期間を設けることで、会員の都合のいい日、時間帯で参加できた。

② 課　題

今年度は、本委員会も感染状況を考えながら、話し合いをもち、ＰＴＡ活動を前に進めるように取り組んできた。委員が全員集まれない状況で、次年度の提言発表を決めることが難しかった。今後も、次年度の発表内容を検討しながら決定していくことが必要である。

オンラインでの講演会が今後も増える可能性を考え、ＰＴＡでそれが行えるシステムを作っていく必要がある。また、講演会だけではなく、会議等へのオンライン活用についても検討していく必要がある。

今後も見通しを持ち活動を進めていくことが大切であり、今後の課題となってくる。

（4）次年度の方向性

令和４年度日Ｐ北海道ブロック研究大会北見大会の提言発表を行う。研究内容は「２大人の環境整備活動」であり、具体的には「安心安全な地域づくり」「子どもを守り育てるための研修」「子どもへの働きかけ」についての実践内容の提言となる。しかし、コロナ禍で、今年度十分な活動ができなかった地区も多くある。そんな中でも、実施可能なＰＴＡ活動のアイディアを全道に紹介し、活動の参考としてもらいたい。各地区・各単Ｐの実践を踏まえた提言発表選出を行ってきたので、大会での発表に向けて準備を進めることが必要である。

３．　子育て委員会の取組

（1）活動計画

①　研究テーマ

ア　全道統一スローガン

「今　こころ輝いて　親として　人として」

イ　今年度の研究テーマ

「豊かな心をもった子どもを育てる親のあり方」

② 研究の視点

今日、少子高齢化や情報技術の著しい発達など、社会が急激に変化している。都市化や核家族化がさらに進行し、価値観や倫理観、規範意識、家庭教育に関する考え方の多様化など、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化している。また新型コロナウイルス感染症の発症により、感染症対策を講じての生活様式の変化や経済への影響など、世界情勢の見通しが難しい現状である。

子どもたちに「豊かな心」を持たせ「生きる力」を身につけさせるには、親の生き方が大切である。「親は人生最初の教師であり、教育の原点は家庭にあり」と言われるように、親は子どもにとって一番身近で深く関わる存在であり、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、思いやりの心、善悪の判断など、「生きる力」の基礎的な資質や能力は家庭教育の中で培われる。親は子どもの行動や意識の形成に最も大きな影響力を及ぼすものであり、その責任は大きく、人生の先輩として重要な役割を担っている。

予測不能な難しい時代をたくましく、そして健やかに生き抜く力を子どもたちに身につけさせるために、親が家庭内での協力関係を築くとともに、家庭・地域・学校が三位一体となって連携し、新しい時代の子育てに努めることが重要である。

そのため、本委員会は「ＰＴＡとして」「人生の先輩である大人として」子どもたちを取り巻く環境を丁寧に見取り、課題を把握し、解決に向けた取組を推進する。

また、子育てに関する情報の収集や発信、積極的な交流を図るために、今年度も道Ｐ連のホームページを活用し、地区並びに単位ＰＴＡへ情報を継続的に発信・提供する発信源として活動の充実に努める。ホームページ上にブロック各地での活動の様子等を調査しタイムリーに掲載し、情報の共有化や話題を広げる活動実践等の交流の場とする。地区Ｐ連事務局と連携を密にし、活動が見える、わかる、参加したいという実践を目指し、より主体的に子育てに関わることができるような活動を推進していく。

［ 第１回子育て委員会 出席者 ］

（2）研究の内容

①　子育て委員会の活性化と組織の充実のあり方

ア　各地区子育て委員会を組織化し活性化させるための子育て研修会はどうあればよいか。

イ　指導力を高め、行動する子育て委員会の日常的な活動はどうあればよいか。

ウ　自ら学び、行動する親としての研修はどうあればよいか。

エ　行動する親を支える子育て支援の活動はどうあればよいか。

オ　それぞれの実態に応じたスムーズな引き継ぎのあり方はどうあればよいか。

カ　子育て支援のため、自治体、教育委員会等関係機関や、学校、地域との連携はどうあればよいか。

（福祉　教育支援センター　子ども食堂　学童等）

②「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

ア　家庭の教育力を高めるためにはどうあればよいか。

イ　家庭における食生活や食の安全はどうあればよいか。

ウ　家庭と学校、家庭と地域社会の連携はどうあればよいか。

エ　家庭において、情報メディアやネットから子どもの安全を確保するにはどうあればよいか。

③ 子育て委員会の話題提供源としての広報活動

～「生きる力」を子どもたちへ
伝えるための連携・発信をめざして ～

ア　道Ｐ連のホームページを活用した継続的な情報発信の推進

イ　ブロック・各地区・単位ＰＴＡの活動状況内容の収集と話題提供

ウ　情報の共有化及び参考資料の整備

エ　道Ｐ連のホームページを活用した継続的な情報発信の推進

④　令和７年度提言に向けた取組の準備

（3）今年度の取組

①　各地区における活動及び研究の推進

②　道Ｐ連子育て・広報委員会の活動

ア　本年度の方向性の確認

イ　地区子育て委員会の具体的な活動・実践状況についての情報交流

ウ　各地区における引継方法等についての情報交流

エ　道Ｐ連ホームページへの投稿体験

オ　地区子育て委員会報告書の集約・研究内容の交流

カ　今年度のまとめと次年度の方向性についての話し合い

（４）成果と課題

①子育て委員会の活性化と組織の充実のあり方

≪成果≫

ア　時期の変更、会場手配等、対応が大変だったが、実施できる形を模索し実現できた。

イ　時短、参加者限定、複数会場での Zoom による講演会実施、単Ｐごとに会場を設置してオンラインによる講演会と分科会実施、YouTube によるライブ配信、動画配信や再視聴できる対応など、地域性に合わせた工夫による実施ができた。

ウ　オンラインの個人視聴においてはチャット機能を使って意見交流が可能だった。

エ　web 配信の試みの機会となった。

≪課題≫

ア　オンラインにおいて、視聴だけでなく対話形式にすることが容易でない。

イ　オンラインで開催の準備、運営の技術や機材の費用等、誰にでもできる形ではない。

ウ　オンライン視聴側の環境整備が必要である。

エ　顔を合わす機会がないことにより、組織体制存続や引継ぎ業務に支障が出ている。

オ　地区の事務局の任期が短く、引継ぎがスムーズにできない状況があり、その改善策はないか。

カ　コロナ禍における地区子育て委員会の開催を推進する。

キ　小１、小２の保護者がＰＴＡ活動の未経験のため、Ｒ４年度入学予定の保護者も含め参画を促進する。

②「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

≪成果≫

ア コロナ禍により、家庭教育のあり方、親子のかかわり方を見つめ直す機会になった。

イ 「子育て委員会」となったことで、父親の子育て関与を企画の視点に組み込んだ。

≪課題≫

ア　ポストコロナにおける家庭教育のあり方について経験を生かした実践が必要である。

イ　「ＧＩＧＡスクール」等、ネットに関わる家庭教育の重要性への理解が必要である。

③子育て委員会の話題提供源としての広報活動

≪成果≫

ア　コロナ禍を考慮し、広報紙コンクールの応募資格について、年１回の発行でも応募可能になるよう日本ＰＴＡ協議会に要請し実現した。

イ　道Ｐのホームページ投稿について体験研修を行い、各地区との交流への足掛かりとした。

≪課題≫

ア　今後も計画的に全道の特徴的な取組を広く普及する。

イ　ホームページへの投稿の仕方について、会員が活用できるよう取組・改善を推進する。

ウ　広報紙（紙による発信）のよさを見直す機会である。

エ　ペーパーレスや活字離れへの工夫・改善とネットとの共存を模索する。

④令和７年度提言に向けた取組の準備

≪成果≫

ア　テーマの候補例を話し合った。

（例）ネットワーク・情報・メディア、外部（外部機関）との連携、食（給食）について、など

≪課題≫

ア　担当地区の決定、提言に向けた役員の任期継続等、見通しと早目の準備が必要である。

イ　事務局と連携し、スムーズな計画と準備が理想的である。

（５）次年度の方向性

①子育て委員会の活性化と組織の充実のあり方

ア　「活動を止めないＰＴＡ」を目指し、活動の目的・趣旨等の共通理解に努める。

イ　会議について、集合型・リモート形式等、実態に合わせて開催する。

②　「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

ア　子育ての悩みを共有する場を設定し、意見交流や地域関係機関と連携できるよう情報発信を推進する。

イ　関心の高いテーマをもとに家庭教育の在り方を研修し、取組の交流をする。

③子育て委員会の話題提供源としての広報活動

ア　ホームページによる継続的な情報発信を推進する。

イ　ホームページの周知をし、投稿・閲覧を呼びかけ、会員による活用の促進を図る。

ウ　各地区の取組の情報共有化と参考資料の整備をする。

エ　広報紙コンクール参加への呼びかけを推進する。

④令和７年度提言に向けた取組の準備

ア　テーマの絞り込みや担当地区を想定する。

イ　提言までの取組や計画の大枠（予定）を決める。

［ 第３回子育て委員会の様子 ］

令和３年度　子育て委員会の組織

日本ＰＴＡ全国協議会

○日Ｐの母親委員会は以前あったが、現在は廃止されている。

北海道ブロック協議会

○北海道ブロックは、北海道ＰＴＡ連合会と札幌市ＰＴＡ協議会で構成する。
○道Ｐ連からは、５人のブロック代表子育て委員がその任にあたる。
○主に、情報交換を行い、活動の充実のための手がかりを得る。
○１ブロ：街道美恵（石狩管内）　２ブロ：小川香織（宗谷管内）
３ブロ：京谷明希（函 館 市）　４ブロ：西崎里美（胆振西部）
５ブロ：今井亮輔（釧路管内）

北海道ＰＴＡ連合会 子育て委員会

○会則第６章 21 条にある３つの委員会の１つである。
○平成 24 年度より改正
「母親委員会」⇒「母親・広報委員会」
○令和元年度より
「母親・広報委員会」⇒「子育て委員会」
○役割は、母親の役割と母親自らの企画・運営を目指す活動、子育てに関する情報の収集・発信をしていく活動に関すること。
○全道 25 地区Ｐ連の子育て代表委員によって構成される。
○全道 25 地区を５つのブロックに分け、それぞれのブロック代表と道Ｐ連副会長(担当者)、教師代表委員が運営にあたる。

地区子育て委員会（２５地区）

○道Ｐ連子育て委員会から提示された課題、各地区としての課題に基づき活動する。
○平成 11 年度から 25 地区で毎年、子育て研修会が開催されることになった。地区内の子育て研修会だけの取組に止まらず、日常的活動のため、しっかりとした組織化が大切となる。
○構成は地区内をいくつかのブロックに分け、その代表によるもの市町村Ｐ連の代表によるもの単Ｐの代表によるものによって構成されるなど、地域により様々な形態がある。
○活動を円滑に、そして充実したものにするためには、地区Ｐ連事務局等との連携が欠かせない。

市町村Ｐ連子育て委員会（178 市町村）

○単Ｐの女性会長や副会長で構成され、資質向上と子育て委員会活動の会員への理解活動に取り組んでいるところが多い。

単位ＰＴＡ子育て委員会（単　Ｐ）

○母親が単Ｐ活動の柱として参画するように意識改革と母親ならではの活動に取り組んでいる。
○子どもの生活の身近にいる母親には、家庭・学校・地域社会を結びつける大切な働きが期待されている。
○ＰＴＡの活動に止まらず、地域における子育てに取り組んでいるところが増えている。

Ⅳ　地区研究大会の成果と今後の方向性

１　運営面

今年度の各地区の研究大会は、コロナ禍の影響を受けやむなく中止とした地区もあるが、全道的には半数以上の地区で、北海道ＰＴＡ連合会の基本方針や研究テーマに基づいた研究大会が開催された。各地区の研究大会報告から、次の４観点について振り返り、まとめた。

（１）関係機関との連携

・様々な関係機関と連携（主催・主管、共催後援）を図りながら、子どもの成長を共に考えるための工夫がなされている。

〔連携機関例〕

各ＰＴＡ連合会、教育局、市町村教育委員会・同連絡協議会、校長会・教頭会、各新聞社、社会教育委員会、社会福祉協議会、青年会議所、子育て推進協議会、青少年育成ネットワーク等

・関係機関と連携を図ることにより、様々な面で協力を得た。(講師の選定、会場使用及び備品等の貸与、オンライン視聴の準備等)

（２）運営面での改善点

・本大会では昨年のコロナ禍での開催の検証と「大会」としての在り方を見直し、動画配信（YouTube ライブ配信）及びコロナ感染防止を徹底した人数制限のもと来場いただくハイブリッド方式で開催した。

・講演に先立ち、市の環境保全課より情報提供をいただいた。

・緊急事態宣言が発令され、全てオンラインでの参加とした。

・緊急事態宣言の延期により、講演を録画して、特設サイトから配信する方式（期間設定）で開催した。

・一般参加者はＵＲＬかＱＲコードからの申込みとしていたが、ＰＴＡ関係者の申込みは各校がまとめて報告するという従来の形式をとった。地区Ｐ研究大会もＵＲＬかＱＲコードによる申込みの可否を検討するとよい。

・市町村Ｐ連事務局と連携し、単Ｐ事務局へ案内をデータで送付、ＰＴＡ会員へは、単Ｐ事務局から案内を印刷・配布してもらうことで、効率化を図った。

・担当校をホストに、管内各単Ｐに会場を設定し、オンラインで、講演会と例年行われている分科会の１部をミニ講演として開催し、ミニ講演の後半部分で質疑応答を行う形で交流を行った。３７０名を超える方一人一人と回線をつなぐことが技術的に難しかったため、単Ｐ５０校とホストをつなぎ実施した。

・当日のオンライン参加と、後日の各単Ｐでの動画視聴の二本立てで開催。

・講演会後の質問については、会同した会場では、直接受付て、リモートの会場からは、チャットを使って質問を受け付けて、担当者が質問者に代わって質問し、リモート会場からの質問にも答えられるようにした。

・リモートでの開催ということでリモート会場での映像の見え方、音声の聞こえ方に問題がないように事前の調整に気を配った。

・参加人数の制限、会場内の座席を一つおきに設定、学校毎に座席を指定、参加者の氏名確認、入場時の手指消毒並び検温を徹底。

・配布資料等は、受付で配布せず座席に配置。

・退場の際は会場内を複数ブロックに分け、参加者が時間差で退場できるように誘導した。

・安全面を配慮し、託児室を設けていない。

・東京オリンピックの関連で、例年に近い日の日曜日に設定したが、概ね肯定的な評価となった。

・開閉会式の時間を短縮し、参加者が長時間パソコンやスマートフォン等の画面に拘束されないよう努めた。

・アンケートはフォームを活用し、集約した。

（３）成果と課題

①成果

・中止ではなくオンラインで講演会を開催できた。講師の素晴らしい講演を聴くことができ、参加者からも大好評であった。

・コロナ禍においても社会変化に伴いＰＴＡを取り巻く課題が明確に存在する以上、私たちＰＴＡが一堂に課題を共有し、共に考える機会を創出するという意味からも、YouTube ライブ配信は当初の目的を達成することができた。
・オンラインと対面式のハイブリッド形式での開催にしたことによって、コロナの感染拡大防止の取組の中で多くの参加者を得ることができた。
・ハイブリッドでの開催により、研究大会という雰囲気を感じられた。
・オンラインの配信期間を一か月程度とした　ため、参加者が都合の良い時間や場所で視聴することができた。
・オンラインの活用で、個人視聴も可能となり参加者増につながった。
・講演の動画視聴（期間を設定してオンラインで配信）としたことにより、参加者が都合のよい時間に動画を視聴することができ、会場までの移動もなく、多くの方に参加してもらえた。会場を使用しなかったため、運営面での作業が少なくて済んだ。
・例年よりも参加者を抑えたが、予定した参加期待数とほぼ同じ来場があった。
・教育局の事業と協賛して行ったため、オンラインでの講演会がスムーズに行えた。
・開催要項を事前に郵送し、計画的に実施できた。
・当日、会場が分散したが、タイムテーブル等で綿密に連携を図り、予定通り実施できた。
・コロナ禍のため、運営について、限られた市Ｐ連各部の役員のみで対応したが、機動的に運営並びに準備や片付けが行えた。

②課題

・今後、オンラインでの研修のことを考えると、ＰＴＡでそれが行えるシステムをつくっていく必要がある。その費用と、技術的な面がクリアできなければ実現は難しい。
・ホストからの講演を聴く時間が多く、会員相互の交流を深めることは難しかった。
・オンライン開催の講演のみの大会となったため、例年行ってきた分科会での実践交流を行うことができなかった。次年度以降、分科会の在り方や講師の選定等、開催方法はさらに検討する必要がある。
・動画視聴なので、生の講演を聴く臨場感は味わえなかった。
・動画視聴は、参加者を限定せずに会員全戸に配信すればより多くの成果を得ることができる。
・運営作業が少なかった反面、会員の参画意識は低下した印象があった。
・各部部員の仕事が限られた。意識を持って取り組もうとしていた人にとっては物足りないものになったと思う。
・開閉会式のさらなるスリム化を検討する。
・ＵＲＬかＱＲコードによる申込みの可否を検討する。
・参加制限を設けたため、希望しても講演会に参加できない保護者がいた。
・当日の講演と、動画視聴、見逃し配信などを組み合わせると、より多くの会員に参加してもらうことができる。

（４）今後の方向性

・オンラインと来場参加を組み合わせたハイブリッド型での開催など、コロナ禍における有効な開催方法についてさらに検討していく。
・今後も、会場校の実態に合わせ可能な限り開催市町村の特色を発揮できる大会の開催・運営を目指す。

［渡島地区ＰＴＡ連合会研究大会福島大会の様子］

２　内容面

道Ｐ連の基本方針や研究テーマを受けて各地区で研究大会を行い、講演会や分科会等を通して各地区のＰＴＡ会員が研修を深めた。しかし、コロナ禍による多くの人が集まれない状況もあった。そのような中、様々な工夫をしながら、各地区では、計画立案の段階から、YouTube や Zoom 等を活用した研究大会を実施してきた。今年度、研究大会を実施できた地区は、２５地区中、１６地区であった。

（１）研究方法

２５地区の取組状況を見ると、研究大会を実施できた１５地区は講演会、分科会、ワークショップ等を開催している。そのうち１２地区が講演会のみの実施であった。また、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、様々な工夫をして開催し、従来のように会員が一堂に会しての研究大会は５地区のみで、YouTube や Zoom 等のオンライン開催、または、併用した形でのハイブリッド方式で開催した地区が４地区みられた。

開催時期は７月から１１月で、期間限定として Web 上で視聴可能としている地区もあった。またＰＴＡ研究大会と子育て研修会との同日開催の地区が７地区あった。

講演会では各地区の主題や課題に基づきながらも、コロナ禍での参加者の意欲や関心を高めるため、さまざまな分野で活躍されている講師が選定されていた。

①　講演会

ア　講師

講師は、大学教授や学校法人理事長などの教育関係者や医師、民間会社社長、NPO 法人、スポーツ関係者、タレント、ピアニスト等、多岐にわたり、各地区のゆかりある方を招くなど、研究テーマに沿った方の講演となっている。コロナ禍での子どもの状況や親としての在り方、社会を取り巻く今日的課題に識見のある方々を招いている。新しい生活様式への変化が求められる中、予測不可能な社会を生きていく子どもたちに関わる内容が多く見受けられた。

具体的な講演内容としては、健全な心と身体の成長、コロナ禍の今親ができる「学び」と「実践」、２１世紀を担う子どもたちを育てるＰＴＡ活動、地域に根差したＰＴＡ活動、夢や希望を育むＰＴＡ活動、ＳＤＧｓ、ゲーム依存症、コーチング等が取り上げられていた。

・医師　・大学教授　・民間会社前社長
・学校法人理事長　・トラストコーチング
・わたしのＳＤＧｓ理事　・生物学者
・五輪金メダリスト　・タレント　・保健師
・ジャズピアニスト　・市町村教育委員会職等

②　分科会

ア　形式

今年度、分科会を実施した地区は２地区であったが、オンラインでの開催、参加人数を制限して実施した。

イ　テーマ

学校や教育・社会の現状や課題、コロナ禍に配慮した分科会を設定している。

③　その他工夫点

ア　全般

・講演のみとし、最後に、質問や意見交流をおこなった。
・講演を参加者との対話形式にするため、事前アンケートをとったり、チャット機能を活用し、講演中に参加者からの意見や質問を受け付けた。
・Zoom、YouTube のどちらでも視聴できるようにした。
・講師の選定にあたっては、昨年度のアンケートをもとに、参加者のニーズにあわせて行った。
・東京オリンピック、パラリンピックにあわせて、元オリンピアンに講演を依頼した。
・動画視聴のみであったが、画像や動画をふんだんに使った講演とすることで、より伝わりやすい内容となった。
・ハイブリッド開催とし、開会式と会長情報交換会を会場開催、講演を YouTube 配信、各種挨拶はホームページ掲載とした。
・初めてのオンライン・対面ハイブリッド開催だったが、大きな問題点は無く、参加者から好評をいただいた。
・昨年度管内 PTA 連合会研究大会を実施しな

かった分、予算的な余裕もあり、前年度から講演会講師が決定したうえで事務局を引きついだが、ネームバリューのある方は、講演料も高額であるため、管内 PTA 連合会予算だけで賄うのは厳しく、町への補助金要請をした。
・高校生のワークショップの報告を受けた後の講演としたため、子どもの声が反映された講演内容になった。
イ　講演
・地域とかかわりのある方を講師に選定
・昨年度のアンケートをもとに、参加者のニーズにあわせた選定
ウ　分科会
・オンラインでの開催
・講師をたてた分科会の設定

（２）成果と課題

今年度の各地区研究大会では、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、地区ごとにオンライン配信やハイブリッド型等様々な工夫をして開催した地区が多かった。コロナ禍においても、できる活動を行っていこうとする新たな手法としての工夫がなされ、どの開催地区においても貴重な学び合いの機会となった。しかし、分科会を開催できた地区は２地区で、コロナ禍においては分科会を行うことが難しかった。

①　成果（各地区の報告から）

ア　講演
・ハイブリッドでの開催となったが、宗谷教育局社会教育主事による CS を含めた地域ぐるみの教育の在り方について学ぶことができた。
・子どもたちの描く夢を支えていく大人の支援や環境作りの大切さを学ぶことができた。
・Zoom 視聴者は講師とチャットで繋がり、YouTube は気軽に視聴できたので、それぞれが参加した充実感を得ることができた。
・「多様性を認め合う」ことは難しいが考え続けていかなければならない課題であることを再確認することができ、今後の子育てや教育活動の参考とすることができた。
・人と人とのつながりや、目標に向かって努力すること、苦しいことがあっても腐らず前向きでいることの大切さなどを感じ、子どもたちへ伝えたいという声が多数あった。
・講演内容については、アンケートもとりながら絞り込んだが、会員のニーズをしっかりととらえながら進めることができた。
・今回はコロナ対応で内容を大きく変えることとなったが、オンライン開催を実績とすることができ、今後、「活動を止めないＰＴＡ」の先駆け的取組となった。
・各市町村の学校を視聴会場としたり、個人視聴も可能にしたりすることで、例年より多くの方々が参加することができた。
・参集形式の講演開催を喜んでくださる方が多かった。
イ　分科会
・昨年度からほとんどの学校でＰＴＡ活動を行うことができない状況と予想されたため、提言や話し合いの時間を設定せず、講師をたてて３つの分科会を設定した。

②　課題（各地区の報告から）

・保護者の関心が高いテーマだったので、希望する方が多かった。人数制限を設けたため、希望しても参加できない保護者がいた。
・ホストからの講演を聞く時間が多く、会員相互の交流を深めることが難しかった。
・会場校での視聴では、チャット機能を使った対話形式の講演は難しかった。
・コロナ禍においては、今年度以上の取組は難しかった。次年度以降コロナ感染や抑制の状況を見ながら取り組むことが必要である。

（３）今後の方向性

今年度はコロナ禍においても、開催可能な方策で研究大会を開催する地区が多くあった。今後も、できる活動方法を模索しながら、「活動を止めないＰＴＡ」となるよう、工夫した活動が必要である。今年度行ったオンライン配信（ハイブリッド型を含む）での研究大会実施のノウハウを各地区で交流する等、今後の活動へつなげることができる。

また、これまで同様、道Ｐ連の基本方針や研究テーマを受けて各地区研究大会の趣旨・目的や研究主題を決定したり、参加者にとって意義ある内容や方法に工夫・改善したりするために、各地区研究大会の成果と課題を参考とし、次年度の研究大会の充実を図る。

３．地区ＰＴＡ研究大会の実施状況と概要

全道の 25 地区で研究大会・子育て研修会が、北海道ＰＴＡ連合会の基本方針・研究テーマを受けて実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、地区研究大会は 11 地区子育て研修会が 12 地区で中止となりました。更に、緊急事態宣言延長等に伴い、多くの地区でオンラインによる YouTube 配信や一部オンラインによるハイブリッド形式など、「新北海道スタイル」安全宣言に則った開催方法の工夫が成されました。

コロナ禍による現状を踏まえ、従来の開催方法を見直し、新たな方法を模索し取組を継続された関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

また、次年度以降もコロナ禍での開催を想定しつつ、今年度の成果と課題を活かしながら、方向性を検討していただければと思います。

◎地区ＰＴＡ研究大会実施状況（詳細は北海道ＰＴＡ連合会のホームページに掲載）

ﾌﾞﾛｯｸ	地区名	開催日	開催地	参加人数
1	石狩管内	11 月 20 日中止		
	小 樽 市	10 月 26 日(火)	小樽市民センター（マリンホール）	189
	後　　志	8 月 29 日中止		
2	上川北部	8 月 22 日(日)	剣淵町　オンライン配信	103
	旭 川 市	11 月 14 日(日)	・旭川市公開堂　・旭川トーヨーホテル ・旭川建設労働者福祉センター(サン・アザレア)	274
	上川南部	8 月 21 日中止		
	稚 内 市	11 月 5 日(金)	稚内市総合文化センター対面&オンライン配信	300
	宗谷管内	11 月 14 日(日)	幌延町国際交流センターハイブリッド開催	201
	留萌管内	9 月 25 日(土)	小平小学校（オンライン配信）	260
3	函 館 市	9 月 4 日(土)	東山小学校（オンライン開催）	246
	渡　　島	10 月 24 日(日)	福島小学校（オンライン開催）	374
	檜　　山	中　　止		
4	南 空 知	10 月 9 日中止		
	北 空 知	11 月 13 日中止		
	胆振東部	10 月 13 日中止		
	胆振西部	9 月 25 日(土)	登別市民会館大ホール オンライン配信	263
	日高地区	11 月 14 日中止		
5	ｵﾎｰﾂｸ東部地区	10 月 2 日(土)	網走市オホーツク文化交流センター	190
	ｵﾎｰﾂｸ中部地区	9 月 11 日中止		
	ｵﾎｰﾂｸ西部地区	9 月 26 日(日)	西興部村ホテル森夢　　ＷＥＢ配信	186
	帯 広 市	11 月 27 日(土)	とかちプラザ　YouTube 配信	64＋α
	十勝管内	7 月 18 日(日)	清水町文化センター　オンライン&対面	250
	釧 路 市	10 月 23 日(土)	釧路市青陵中 YouTube ライブ配信 ハイブリッド	310
	釧路管内	11 月 14 日中止		
	根室地方	中　　止		

◎地区研究大会の概要

NO	地区名	日程	大会スローガン・主題	研　究　内　容	形　式
1	小 樽 市 10 月 26 日 （火）	午後 半日	〈研究主題〉 （テーマ） ゲーム依存症の現状と課題 「環境とコミュニケーションの重要性」	講演会 ・講　名　白坂　知彦　氏 （手稲渓仁会病院　精神保健科部長） ・演　題　「ゲーム依存症とつきあうコツ」	・子育て研修会と別日・別内容
2	上川北部 8 月 22 日 （日）	午前 半日	〈研究主題〉 （テーマ） 「一人一人の子どもに、豊かな心と夢や希望を育むPTA活動の実践」～会員相互の研修を深め、学習し、行動するPTA ～	講演会 ・講　師　野井　真吾　氏　（日本体育大学教授　） ・演　題　「子どものからだと心が求める生活とは」	・子育て研修会と同日・同内容 ・オンライン配信
3	旭 川 市 11月14日 （日）	午後 半日	研究主題 （テーマ） 「かわりゆく新時代（いま） わたしたちがかえていくこと」	講演会 ・講師名 喜多　俊之　氏（株：喜多俊之デザイン研究所 代表） 織田　憲嗣　氏（東川町デザインアドバイザー） 渡邊　直行　氏（株：カンディハウス 相談役 あさひかわ創造都市推進協議会会長） ・演 題　「ユネスコデザイン都市・旭川市の未来」 分科会 ・講師名 山下みちよ　氏（一般社団法人旭川消費者協会副会長） テーマ「悪徳商法に気を付けよう」 小島　紀行　氏（旭川市教育委員会社会教育課主幹） テーマ「学校を核とした地域づくり」 青木こずえ　氏（フリーヨガインストラクター） テーマ「ココロを整えるヨガの可能性」 古田　史郎　氏（プロビーチバレーボール選手） テーマ「なりたいじゃなく　ありたい自分」	・子育て研修会と別日・別内容 ・規模縮小
4	稚 内 市 11 月 5 日 （金）	夜	研究主題（テーマ） ・「タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生～タニタの社員食堂の秘話を交えて～」	講演会 ・講　師　谷田　大輔　氏 （株：タニタ 前代表取締役社長） ・演　題　「タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生 ~タニタの社員食堂の秘話を交えて~」	・子育て研修会と同日・同内容 ・対面＆オンライン配信
5	宗谷管内 11月14日 （日）	午前 半日	研究主題（テーマ） ・大会主題『未来を拓く子どもたちに生きる力を育むPTA・地域の活動』 ・大会スローガン『つながりのなかで子どもたち（地域の宝）を見守り育もう！』	講演会 ・講師名　田中　賢介　氏（学校法人田中学園理事長） ・演　題　Challenge with Dream	・子育て研修会と同日・同内容 ・ハイブリッド開催

6	留萌管内 9月25日 （土）	午前 半日	大会主題 『北の大地に根ざした人間性豊かな子どもを育てよう』	講演会 ・講　師　八十嶋　聡子　氏 （一般社団法人トラストコーチング） ・演　題　「あなたはどっち？子どもの「やる気」を奪う口ぐせ、引き出す口ぐせ」	・子育て研修会と同日・同内容 ・オンライン・チャット機能を生かした対話形式
7	函館市 9月4日 （土）	午後 半日	研究主題（テーマ） コロナ禍の今、親ができる 「学び」と「実践」	講演会（室蘭よりリモート講演） ・講 師　　星　さとみ 氏 （一般社団法人わたしのSDGs 理事） ・演 題　わたしのSDGsを見つけよう！ ～自分自身が今からすぐにできる SDGs を見つけ、行動していこう！～	・子育て研修会と別日・別内容 ・オンライン開催
8	渡　　島 10 月 24 日 （日）	午前 半日	研究主題（テーマ） 未来を見つめ、日々変容する社会に生き、心身ともに健康な子どもの育成をめざすＰＴＡ活動は、どうあればよいか	講演会 ・講 師　藤澤　義博　氏 （株：manabit 代表取締役） ・演 題　「誰もが学び続けられるデジタル教育」 分科会 ＊読書のすすめ ～家庭における読書活動～ ・講 師　金谷由美子　氏 （絵本未来創造機構EQ絵本講師） ＊がん教育の在り方　～学校教育において～ ・講 師　小笠原　実　氏　（小笠原クリニック院長） ＊健康教育のすすめ　～家庭教育における健康教育～ ・講 師　原田　良子　氏　（保健師）	・子育て研修会と同日・同内容 ・オンライ講演会と３分科会ミニ講演会
9	胆振西部 9月25日 （土）	午後 半日	研究主題（テーマ） すべての子ども達の幸せを願い学校と地域における”排除“と”子どもの権利“に向き合う	講演会 ・講 師　野尻　紀恵 氏 ・日本福祉大学社会福祉学科教授 ・豊田市教育委員会いじめ防止対策委員会委員長 ・茨木市・常滑市・春日井市・南知多町教育委員会 スーパーバイザー ・演 題「すべての子ども達の幸せを願い学校と地域における”排除“と”子どもの権利“に向き合う」	子育て研中止 ・オンライン開催講演会・ワークショップ形式
10	オホーツク 東部地区 10 月 2 日 （土）	午前 半日	研究主題（テーマ） 「心豊かに、ともに支え合い、ふるさとオホーツクに誇りをもつ子どもを育てる」	講演会 ・講　師　池田　清彦　氏 （生物学者　早稲田大学名誉教授　山梨大学名誉教授） ・演　題　「少しの努力でできる子を育てる ～ひとりひとりの良さを生かして～」	・子育て研修会と別日・別内容 ・参加者型上限200座席全体の50%

11	オホーツク 西部地区 9月26日 （日）		研究主題（テーマ） 「オホーツクの大地で育む、心豊かでたくましい子どもたち」	講演会 ・講　師　阿部　雅司　氏 （名寄市特別参与・札幌オリンピックミュージアム名誉館長） ・演　題 「金メダルへの道のり～つらい時こそ笑顔で～」	・子育て研修会と別日・別内容 ・会員動画視聴による参加
12	帯広市 11月27日 （土）	午後 半日	研究主題（テーマ） ・「新たな挑戦～未来へ向かう多様な学びをハイブリッドで～」	講演会 ・講師名　馬渕侑希乃 氏 （帯広市市民福祉部健康推進課健康第１係） ・演題「新型コロナウイルス感染対策について」 ・講師名　国見亮佑 氏（にじいろほっかいどう事務局長） ・演題「LGBTについて　～性の多様さを受けとめる～」 ・講師名　浦木明子 氏（食べもの探検家 食の寺子屋 直歩塾代表） ・演題「北海道の郷土料理”いずし”について ～発酵食品の魅力～」 ・講師　高田敦史 氏 （帯広市総務部危機対策室危機対策課係長） ・演題「帯広市の水害に備えて」 ・講師　多治見忠 氏 （帯広市教育委員会学校教育指導課指導主事） ・演題「いじめ・不登校について身近なサインを見つける、親としての対処法」	・子育て研修会と同日・別内容 ・ハイブリッド開催、講演会をYouTube配信
13	十勝管内 7月18日 （日）	午前 半日	研究主題（テーマ） 「十勝の教育風土に根ざした、人間性豊かな子どもを育てるＰＴＡ活動を推進しよう」	講演会 ・講 師　森 崎 博 之　氏 ・演 題　「十勝の食の素晴らしさ ～食育を通した親子のふれあいについて」	子育て研修会と同日・同内容 ・オンライン・対面ハイブリッド型
14	釧路市 10月23日 （土）	午前 半日	研究主題（テーマ） ２１世紀を担う子供たちを育てるＰＴＡ活動 ～自立する子を共に育む過程と地域の教育力～	講演会 ・講　師　木原　健太郎　氏 （ジャズピアニスト・作曲編曲家） ・演　題　故郷に思いを馳せて、子どもたちにつたえたいこと　～♪生き抜く力をピアノにのせて♪～	・子育て研修会と別日・別内容 ・YouTubeライブ配信及び人数制限のハイブリッド型

〈資料〉　地区研究大会　　講師一覧

敬称略

講 師 名	肩　　書	演　　題	開催地区
白坂　知彦	手稲渓仁会病院　精神保健科部長	「ゲーム依存症とつきあうコツ」	小 樽 市
野井　真吾	日本体育大学教授	「子どもの体と心が求める生活とは」	上川北部
喜多　俊之 織田　憲嗣 渡邊　直行 山下みちよ 青木こずえ 古田　史郎	株：喜多俊之デザイン研究所 代表 東川町デザインアドバイザー 株：カンディハウス 相談役 あさひかわ創造都市推進協議会会長 一般社団法人旭川消費者協会副会長 フリーヨガインストラクター プロビーチバレーボール選手	「ユネスコデザイン都市・旭川市の未来」 「悪徳商法に気を付けよう」 「ココロを整えるヨガの可能性」 「なりたいじゃなく　ありたい自分」	旭 川 市
谷田　大輔	株式会社タニタ 前代表取締役社長	「タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生 ~タニタの社員食堂の秘話を交えて~」	稚 内 市
田中　賢介	学校法人田中学園理事長	Challenge with Dream	宗谷管内
八十嶋聡子	一般社団法人トラストコーチング	「あなたはどっち？子どもの「やる気」を奪う口ぐせ、引き出す口ぐせ」	留萌管内
星　さとみ	一般社団法人わたしのSDGs 理事	わたしのSDGsを見つけよう！ ～自分自身が今からすぐにできるSDGsを見つけ、行動していこう！～	函 館 市
藤澤　義博 金谷由美子 小笠原　実 原田　良子	株式会社manabit 代表取締役 絵本未来創造機構EQ絵本講師 小笠原クリニック院長 保健師	「誰もが学び続けられるデジタル教育」 「読書のすすめ ～家庭における読書活動～」 「がん教育の在り方　～学校教育において～」 「健康教育のすすめ～家庭教育における健康教育」	渡　　島
野尻　紀恵	日本福祉大学社会福祉学科教授	「すべての子ども達の幸せを願い学校と地域における”排除“と”子どもの権利“に向き合う」	胆振西部
池田　清彦	生物学者　早稲田大学名誉教授 山梨大学名誉教授	「少しの努力でできる子を育てる ～ひとりひとりの良さを生かして～」	オホーツク東部地区
阿部　雅司	名寄市特別参与 札幌オリンピックミュージアム名誉館長	「金メダルへの道のり～つらい時こそ笑顔で～」	オホーツク西部地区
国見　亮佑 浦木　明子	にじいろほっかいどう事務局長 食べもの探検家 食の寺子屋 直歩塾代表	「LGBTについて　～性の多様さを受けとめる～」 「北海道の郷土料理”いずし”について～発酵食品の魅力～」	帯 広 市
森崎　博之	ＴＥＡＭ　ＮＡＣＳ	「十勝の食の素晴らしさ ～食育を通した親子のふれあいについて」	十勝管内
木原健太郎	ジャズピアニスト・作曲・編曲家	故郷に思いを馳せて、子どもたちにつたえたいこと ～♪生き抜く力をピアノにのせて♪　～	釧 路 市

Ⅴ．子育て研修会の成果と今後の方向性

今年度も北海道ＰＴＡ連合会の基本方針や研究テーマを受けて、全道２５地区で子育て研修会を予定していましたが、コロナ禍により１３地区での開催となった。１３地区からの報告をもとに、成果と課題及び今後の方向性等についてまとめる。

［小樽市P連子育て研の様子］

１．研修会の運営

（１）開催時期・日時・参加数について

①開催時期

月	７月	8月	9月	10月	11月	12月
地区	1	1	1	5	5	0

※開催時期は、７月～11月にわたって開催されているが、内３地区については、YouTubu 期間限定公開となった。

②曜日

曜日	平日	土曜	日曜	祝日
地区	4	5	3	1

③日程

YouTubu 期間限定公開以外は半日日程で行われ、地区研究大会との合同開催が多いようあった。

④　参加人数

人数	~100	~200	~300	~500
地区	4	3	4	1

（２）開催地・開催場所の決定について

①　地区子育て研修会の担当事務局となった学校や市町村が開催地となっている場合が多かった。

②　会場は、収容規模や駐車場の広さ、費用・日時、実施内容等を考慮し、公共施設や小・中学校での開催となった。

（３）関係機関・団体との連携について

①　主催を道P連・地区P連、主管を地区P連や市町村P連などが担っている。

②　後援を教育局や市町村教育委員会や校長会などに依頼している。

③　各種関係団体と連携し、共催としている地区もある。

（４）参加要請の方法について

①　主管P連事務局より地区P連や市町村P連を通して各単Pへ案内・集約を依頼し、取りまとめてもらっている。

②　後援いただいた関係機関・団体へは、地区P連、市町村P連事務局から案内文書を発送、または直接挨拶に伺う等の対応をしている。

（５）運営面での工夫・改善について

①　コロナ禍において会同しての研修会を模索し、参加対象者を子育て研修部員及び市Ｐ連事務局員に限定しての少人数開催とした。また、研修会の内容を動画化し、ＰＴＡ会員に配信した。　（小樽市）

②　コロナ禍であってできる研修ということで、講師の先生は東京から講演を行っていただき、当日個人の端末を使用しオンラインで参加する方と、後日、各単Ｐで動画視聴して参加していただくという二本立てで行った。　（上川北部）

③　テーマ設定趣旨にある通り、笑顔になるよう役員も含め参加者が楽しむことを前提に企画した。本年度は、コロナ禍でもあり規模を縮小し４分科会を設け、参加者のニーズに応えることができるよう設定した。　（旭川市）

④　参加形態を会場に参集する方法だけではなく、YouTubeでも配信し、密にならないように、そして気軽に参加できるように工夫した。　（稚内市）

⑤　コロナ禍の中での開催であるため会同するのは、事務局のある幌延町のみ(67名)とし、他町村(134名)は、約20箇所のリモート会場でつないで開閉会式・説明・講演会を行った。昨年度は、中止としたため、今年度は、ハイブリッド開催となったが、PTAとしての学びの場をつくることができた。講演会後の質問については、会同した会場では、直接受け付て、リモートの会場からは、チャットを使って質問を受け付けて、担当者が質問者に代わって質問し、リモート会場からの質問にも答えられるようにした。　（宗谷）

⑥　新型コロナ感染拡大防止のため、オンライン開催としました。管内の一つの場所を視聴会場とせず、各市町村の学校を視聴会場としたり、個人視聴も可能にしたりすることで、参加者の感染に対する不安をできる限り少なくして開催した。　(留萌)

⑦　例年は広く告知し参加者が80名程度集まる研修会を行ってきたが、コロナ禍で感染拡大を防止するため、子育て委員のみが研修会に参加し、その様子を後日動画配信することにした。　(函館市)

⑧　コロナ禍のため、密を避け、参加者の安全を最優先に運営方法を検討した。結果、担当校をホストに、渡島管内各単Ｐに会場を設定し、オンラインで講演会と例年行われている分科会の１部（３分科会）をミニ講演として開催し、ミニ講演の後半部分で質疑応答を行う形で交流を行った。370名を超える方一人一人と回線をつなぐことが技術的に難しかったため、単Ｐ50校とホストをつなぎ実施した。　(渡島)

⑨　新型コロナウイルス感染防止対策として、参加者を保護者、教職員に限定し実施した。参加者を会場の収容人数の50％に抑えた。入場時に参加者への手指消毒を実施した。受付はセルフとし、配布資料は座席に置くなど、人と人との接触を極力少なくした。安全面を配慮し、託児室は設置しなかった。　（オホーツク東部）

⑩　コロナ下での開催のため、感染防止対策・ソーシャルディスタンスの確保等十分に行い、密にならないように参加者数を制限した。　（オホーツク西部）

⑪　コロナ禍の為、会場とYouTube配信、ホームページでの掲載の開催とした。多くの人に講演を発信することができた。ラインを使ったオンライン役員会も開催して、準備を進めた。　（帯広市）

⑫　第一次案内を５月８日の十勝管内ＰＴＡ連合会総会にて管内の全町村のPTA連合会を通して各単位PTAに配布。また、第二次案内を６月21日に各町村PTA連合会にメールにて送付し、各単位ＰＴＡ事務局へ参加要請を行った。新型コロナウイルス感染症の影響がある中、「中止」ではなく内容を工夫しての開催を模索し、オンラインと対面式のハイブリッド開催とした。そのため、内容も例年と大きく変わることになった。　(十勝)

［釧路市P連子育て研の様子］

⑬　本年度も昨年同様コロナウイルス感染拡大防止のため、一会場に参加者を集約するこれまでの方法では開催できないことを早々に判断し、YouTubeライブ配信として開催した。　(釧路市)

（６）運営面での成果と課題

①　参加対象者を限定し、検温シート提出や

手指消毒、マスク着用など感染対策を講じることによって会同して講演会方式での研修会を実施することができた。（小樽市）

② 東京の野井先生の素晴らしい講演を聴くことができ、参加者からも大好評でした。中止ではなくオンラインで講演会を行えてよかったです。今回は上川教育局の事業と協賛して行ったため、オンラインでの講演会がスムーズに行えた。今後、オンラインでの研修のことを考えると、PTAで行えるシステムをつくっていく必要がある。その費用と、技術的な面がクリアできなければ実現は難しい。（上川北部）

③ コロナ禍の影響で予定の実施日・会場を延期・変更し、別の施設を貸し切り開催にこぎつけることができた。「母親研修会」の名称が敷居の高さを感じさせるため、次年度はサブテーマ等に参加意欲が湧くように工夫する。（旭川市）

④ 会場で参加した人数155名とオンライン(YouTube)視聴者145名を合計すると300人の参加となり、コロナの感染拡大防止の取組と並行しながらも多くの参加者となった。（稚内市）

⑤ リモートでの開催ということでリモート会場での映像の見え方、音声の聞こえ方に問題がないように事前の調整に気を配りました。町PTA連合会の協力の他に幌延町教育委員会情報教育センターの主事にも全面的に協力をいただき、リモート会場の視聴に不備のないようにした。当日は、一部映像が固まったりしたところはあったようですが、それ以外は、映像も音声も届いていた。（宗谷）

⑥ オンライン開催で個人視聴も可能にしたことで、気軽に参加できる体制となり、多くの方々に参加していただくことができました。新型コロナ感染拡大防止により、オンライン開催の講演のみの大会となったため、例年４つの分科会に分かれた実践交流を行うことができなかった。（留萌）

⑦ 人を集めないので、感染状況をあまり気にすることなく計画することができた。初めての試みでしたが、委員の中で役割分担をして運営できた。ただ、動画の編集作業が未経験で、知識に長けた協力者が欠かせません。また、備品も新たに購入する必要があった。（函館市）

⑧ 開催要項を事前に郵送し、計画的に実施できました。ホストからの講演を聴く時間が多く、会員相互の交流を深めることは難しかった。（渡島）

⑨ 開会式を簡略化するとともに、閉会式を実施せず、講演時間の確保にあてたことはおおむね好評であった。当日の荒天もあり換気時間が予定より短くなってしまった。（オホーツク東部）

⑩ 座席間の距離を十分にとることで参加人数は少なくなるが、感染防止対策は十分なものができたと考えている。（オホーツク西部）

⑪ 機動的に運営並びに準備や片付けが行えた。コロナ禍のため、限られた市Ｐ連各部の役員身で対応した。各部部員の仕事が限られた。意識を持って取り組もうとしていた人にとっては物足りないものになったと思う。（帯広市）

⑫ 例年「海の日」を開催日としましたが、今年度は東京オリンピックにより祝祭日が変更となったため、例年に近い日の日曜日に設定した。開催後のアンケート集約を見ても、概ね肯定的な評価となっている。

初めてのオンライン・対面ハイブリット開催でしたが、大きな問題点はなく、参加者から好評をいただきました。今後も、会場校の実態に合わせ可能な限り開催町村の特色を発揮できる大会の開催・運営を望みます。（十勝）

⑬　YouTubeライブ配信により、コロナウイルス感染拡大防止はもちろん、会場に足を運ぶ煩わしさがない、改めて再視聴できる良さなど、家族で講演内容を共有でき話題作りになるなど、本年度も大きな成果を得ることができた。　(釧路市)

（７）今後の方向性

①　今後もコロナ禍での開催を想定されます。「新北海道スタイル」を念頭に置き、中止とせず、できる範囲で工夫・改善を図ることは大切だと考える。

②　YouTubuライブ配信など、一堂に会することなく、視聴・再視聴できる工夫も成果と言える。

③　講演会・研修会の動画を収録したＤＶＤの配布など、ネット環境に配慮した工夫が図られた。

④　今後も子育て研修会の目的や趣旨、位置づけを明確にし、主体的な企画・運営を目指すことが大切だと思う。

⑤　各地区のこれまでの積み上げを生かしつつ子育て研修会の成果と課題を参考に研修会の充実を図ることが大切である。

[オホーツク西部地区子育て研の様子]

２．研修会の内容

（１）研修会の形式

①　講演会、動画配信　(小樽市・函館市)

②　分科会　(旭川市)

③　オンライン講演会、動画配信（上川北部)

④　講演会、YouTube 配信　(稚内市)

⑤　オンライン講演会（Zoom）　（留萌）

⑥　オンライン講演会及び分科会　（渡島）

⑦　講演会（オホーツク東部・オホーツク西部）

⑧　ハイブリッド講演会（宗谷・帯広市・十勝）

⑨　YouTube ライブ配信による講演会　（釧路市）

（２）研究内容での工夫・改善について

①　ＮＰＯ法人自然教育促進会理事長　安原政志氏による講演会

演題「親子で小樽の自然と遊ぼう」

・親子で遊べる小樽の自然について、アウトドアの専門家から自然の中での遊び方を、持ち物や留意点等も含めレクチャーしていただいた。

・対象の自然を山・川・海の３つのエリアとした。　（小樽市）

②　ＮＰＯ法人　お助けネット代表　中谷通恵氏による講演会

演題「コロナ禍の今、親と子の絆をどう深める？～パパの役割・ママの役割～」

・北海道教育委員会渡島教育局の家庭教育支援推進事業として講師をお願いできたので、テーマにぴったりな講師を紹介していただいた。

・役割分担することで、委員が主体的に研修できた。　（函館市）

③　研究テーマを「Power of Smile ～幸せのエネルギー～」とし、テーマなどにもある通り、笑顔になるよう役員も含め参加者が楽しむことを前提に、４分科会を設定した。

ア　第１分科会「情筋トレーニング・顔トレ」

イ　第２分科会「マスクメイク」

ウ　第３分科会「こころパレット®」

エ　第４分科会「セルフ頭蓋骨ケア」

・コロナ感染防止のため、参加者への検温・消毒、会場内の三密回避等に配慮した。

・コミュニケーション等がとりにくいため、体験型の内容が中心となった。（旭川市）

④　地区ＰＴＡ研究大会に同じ（上川北部）

⑤　地区ＰＴＡ研究大会に同じ　（稚内市）
⑥　地区ＰＴＡ研究大会に同じ　（留萌）
⑦　地区ＰＴＡ研究大会に同じ　（渡島）
⑧　研究テーマ「心豊かに、ともに支え合い、ふるさとオホーツクに誇りをもつ子どもを育てる」とし、参加者限定の講演会を開催した。
講師　釧路工業高等専門学校一般教育課教授　三島利紀氏
演題「子どもの可能性は無限！～親の肯定感の高さが子どもを育む～」
・講師選択については、昨年度のアンケートを基に、参加者のニーズに合わせて人選している。
・オホーツク教育局の「子どもの望ましい生活習慣・学習習慣定着事業」研修会と共催で行った。　（オホーツク東部）
⑩　元網走市家庭児童教育相談室相談員狩野照美氏による講演会
演題「２７年の時を経て～多くの出会いに育てられて～」
・講師は丸瀬布町（現遠軽町）出身。大学卒業後、オホーツク管内の小学校・中学校に勤務。１９９４年に次男（亮　あきら氏）が交通事故に遭われ、頸椎損傷のけがを負い、下半身不随となる。亮氏はスキー競技と巡り合い、幾多の困難を乗り越え、バンクーバーパラリンピック・ソチパラリンピックで金メダルを獲得し、現在も選手として活躍している。講演では、亮氏のエピソードを中心に、母として、一人の女性としての生き方、今の社会に求められている絆、人とのつながりやかかわり方についてお話しいただいた。　（オホーツク西部）
⑪　ＰＴＡ研究大会に同じ　（宗谷）
⑫　帯広市についてはオンライン講演研修を実施　（帯広市）
ア　講師　帯広市市民福祉部健康推進課健康第一係　馬渕侑希乃氏
演題「新型コロナウイルス感染対策について」
イ　講師　にじいろほっかいどう事務局長国見亮佑氏
演題「ＬＧＢＴについて～性の多様性さを受け止める～」
ウ　講師　食べ物探検家　食の寺子屋直歩塾代表　浦木明子氏
演題「北海道の郷土料理“いずし”について～発酵食品の魅力～」
エ　講師　帯広市総務部危機対策室危機対策課係長　高田敦史氏
演題「帯広市の水害に備えて」
オ　講師　帯広市教育委員会学校教育指導課指導主事　多治見忠氏
演題「いじめ・不登校について身近なサインを見つける親としての対処法」
・ハイブリッド開催とした。開会式と会長情報交換会を会場開催、講演会をYouTube配信、各種挨拶はホームページ掲載とした。
・コロナ禍においては、これ以上の取組は難しかった。次年度以降、コロナ感染や抑制の状況を見ながら取り組むことが必要である。　（帯広市）
⑬　地区ＰＴＡ研究大会に同じ　（十勝）
⑬　北海道教育大学釧路校准教授　戸田竜也氏による講演会
演題「子どもの『心の声』に耳を傾ける子育て」
・子育て委員会で研修会の内容について意見交換をした。「親子関係の在り方」そのかかわりの中で、親としてどのように子どもを理解し、接していったらよいのか、という視点についてお話を聞きたいということで、今回の講演会に決定した。（釧路市）

（３）内容面での成果・課題

①　小樽には豊かな自然があり、親子で楽しめるエリアが多数存在することが分かり、自然とのふれあい方を学ぶことができた。

研究主題（テーマ）に迫ることができた。課題としては、多くの会員に動画を視聴してもらい、親子で実践してもらいたい。（小樽市）

② コロナ禍で委員会での打ち合わせが十分できず、ディスカッション内容を深めることが難しかった。（函館市）

③ コロナ禍であり、参加者が予定よりも少なかったが、参加者の感想は肯定的で高い評価を得た。アンケートにも記載された要望内容（分科会）も踏まえ、多くの保護者が参加しやすい内容を次年度も検討していく。（旭川市）

④ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（上川北部）

⑤ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（稚内市）

⑥ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（留萌）

⑦ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（渡島）

⑧ 「コロナ禍において、心と体のバランスを崩している子どもたちや、不安を抱え生活している子どもたちに、大人がどのようにかかわっていけばよいのか」という保護者が直面している課題に即した講演内容であり、「親として意識するべきことがよく分かった」等の好意的な感想が多かった。「命の尊さ」「学力と生活習慣の関係」等話題が多岐に及び、可能な限り公演時間の確保に努めたが、結果的に時間がやや不足してしまった。（オホーツク東部）

⑨ 講演内容が聞き手にとって共感できる内容のものが多く「ためになった」「勇気をもらった」という感想が多く寄せられた。課題として、時間調整を綿密に行えば十分な質疑応答の時間がとれたのではないかと考える。（オホーツク西部）

⑩ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（宗谷）

⑪ 講演内容については、アンケートも取りながら絞り込んだが、会員のニーズをしっかりと捉えながら進めることができた。今年度のアンケートをオンラインで受け付けており、その内容をしっかりと検討して、次年度へ向けた方向性をつけていきたい。（帯広市）

⑫ 地区ＰＴＡ研究大会に同じ（十勝）

⑬ 役員会の中で講演内容について協議しており、要望通りのテーマにしたことから、会員から、その後のアンケートからも、この度の講演は大変好評であった。視聴回数は、３００を超えた。（釧路市）

［留萌管内地区研・子育て研の様子］

（４）今後の方向性

① 新型コロナウイルス感染症の流行により形を変えての開催が多々あった。中止とせず、できる形への工夫をし、ニーズに合った講演内容や講師の選定、対面式やネット配信を活用して講演会・分科会を開催できたことは大きな成果であった。今後も地域性に合った様々な開催方法により研修を充実させていく。

② 社会の状況が複雑になり、子育てに悩む親は多い。悩みを家庭だけで抱えるのではなく、多くの人と悩みを共有できるよう意見交換の場を設定すること、地域や関係機関とも連携できる内容の工夫をすることが大切である。研修会の交流とともに、日常的に道Ｐ連のホームページも大いに活用していきたい。

３．地区子育て研修会の実施状況と概要

今年度もＰＴＡに関わる現状や子育てについての課題について、会員同士が知恵を出し合い、自ら企画・運営に携わり、解決の方策を探ることを目的に各地で子育て研修会が開催された。コロナ禍ではあるが、運営面で「新北海道スタイル」を意識した参加方法等に配慮し、開催地区は昨年より増えた。

研修面では、子育ての悩みなど、ニーズに応える講演内容や講師の選定、ディスカッションや分科会の設定などにも工夫・改善が図られた。

問題点は、やはり新型コロナウイルス感染症の流行がなかなか読めず、感染状況によって緊急な変更を余儀なくされた。ただ、安全第一を考慮し、中止ではなく形を変えた開催方法を模索したことで、多くの成果を得ることができた。

今年度は、地区研究大会と子育て研修会の同日開催が５地区、別日開催７地区。研究形態も講演会を中心にした開催や分科会・ディスカッションを設定しての開催。さらには、オンライン配信や各地区でそれぞれの独自性を生かした持ち方をしている。今後も、地区研、子育て研開催の趣旨を十分に生かし、各地区の実情に応じて企画・運営をしていくことが望まれる。

◎地区ＰＴＡ子育て研修会実施状況（詳細は北海道ＰＴＡ連合会のホームページに掲載）

ﾌﾞﾛｯｸ	地 区 名	開　催　日	開　　催　　地	参加人数
1	小 樽 市	１０月１５日（金）	小樽市　小樽市立望洋台小学校 YouTube期間限定公開	16名＋α
2	上川北部	８月２２日（日）	剣淵町　オンライン配信	１０３名
	旭 川 市	１０月３０日（土）	旭川市　上川教育研修センター	７８名
	稚 内 市	１１月　５日（金）	稚内市　稚内市総合文化センター　オンライン配信	３００名
	宗谷管内	１１月１４日（日）	幌延町　国際交流施設　オンライン配信	２０１名
	留萌管内	９月２５日（土）	小平町　小平町立小平小学校　オンライン配信	２６０名
3	函 館 市	１０月１８日（月）	函館市　渡島合同庁舎　YouTube限定公開	13名＋α
	渡　　島	１０月２４日（日）	福島町　福島町立福島小学校　オンライン配信	３７４名
5	ｵﾎｰﾂｸ 東部地区	１１月２７日（土）	大空長　大空町立女満別小学校	７０名
	ｵﾎｰﾂｸ 西部地区	１１月２３日（火）	遠軽町　丸瀬布中央公民館	８８名
	帯 広 市	１１月２７日（土）	帯広市　とかちプラザ　YouTube配信	64名＋α
	十勝管内	7月１８日（日）	清水町　清水町文化ホール　YouTube配信	２５０名
	釧 路 市	１０月　６日（水）	釧路市　釧路市立城山小学校視聴覚室 YouTube配信	３５８名

◎ 子育て研修会の概要

NO	地区名	日程	大会スローガン・主題	形　式	研　究　内　容
1	小樽市 10月15日(金)	午後 半日	子どもの健やかな成長を「自然教育」の視点から捉え、子どもたちの健全な体と豊かな心を見つめ直し、健やかな成長を願う親としての役割を問い直す	講演会 YouTube 配信	講師　安原　政志　氏(NPO法人自然教育促進会理事長) 演題　「親子で小樽の自然と遊ぼう」
2	上川北部 8月22日(日)	午前 半日	心豊かな子どもを育てるための家庭のあり方	講演会 オンライン 録画動画配信	講師　野井　真吾　氏(日本体育大学教授) 演題　子どもの体と心が求める生活とは
3	旭川市 10月30日(土)	午後 半日	「今　こころ輝いて　親として　人として」 Power of smile ～幸せのエネルギー～	分科会	第1分科会「表情筋トレーニング・顔とれ」 第2分科会「マスクメイク」 第3分科会「こころパレット Ⓡ」 第4分科会「セルフ頭蓋骨ケア」
4	稚内市 11月5日（金）	夜	タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生～タニタの社員食堂の秘話を交えて～	講演会	講師　谷田　大輔氏（株式会社タニタ前代表取締役社長 演題　タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生～タニタの社員食堂の秘話を交えて～
5	宗谷 11月14日(日)	午前 半日	『未来を拓く子どもたちに生きる力を育むPTA・地域の活動』 『つながりのなかで子どもたち（地域の宝）を見守り育もう！』	講演会	講師　田中　賢介氏 （学校法人田中学園理事長） 演題　Challenge with Dream
6	留萌 9月25日(土)	午前 半日	「北の大地に根ざした人間性豊かな子どもを育てよう」	講演会 オンライン	講師　八十嶋　聡子　氏（一般社団法人トラストコーチング） 演題　あなたはどっち？子どもの「やる気」を奪う口ぐせ引き出す口ぐせ
7	函館市 10月18日(月)	午前 半日	コロナ禍の今、親と子の絆どう深める？～パパの役割・ママの役割～	講演会 動画配信 ディスカッション	講師　中谷　通恵　氏（ＮＰＯ法人　お助けネット代表） 演題　コロナ禍の今、親と子の絆をどう深める？パパの役割・ママの役割
8	渡島 10月24日(日)	午前 半日	未来を見つめ、日々変容する社会に生き、心身ともに健康な子供の育成を目指すPTA活動は、どうあればよいか	講演会 オンライン 分科会	講師　藤澤　義博　氏（株式会社manabit代表取締役） 演題　誰もが学び続けられるデジタル教育 第５分科会「家庭において豊かな心を育てるためにどうしたら良いか」

					第６分科会「子どもの健康を増進し、たくましく育てるのはどうしたら良いか」 第８分科会「子どもが安全で健やかに育つためにはどうしたらよいか」
9	オホーツク東部 11 月 27 日(土)	午前半日	「心豊かにともに支え合い、ふるさとオホーツクに誇りをもつ子どもを育てる」	講演会	講師　三島利紀　氏（釧路工業高等専門学校一般教育科教授） 演題　子どもの可能性は無限！～親の肯定感の高さが子どもを育む～
10	オホーツク西部 11 月 23 日(火)	午前半日	「豊かな心をもった子どもを育てる家庭教育の在り方」	講演会	講師　狩野　照美　氏（元網走市家庭児童教育相談室相談員） 演題　２７年の時を経て～多くの出会いに育てられて～
11	帯広市 11 月 27 日(土)	午後半日	「新たな挑戦～未来へ向かう多様な学びを～ハイブリッドで～」	講演会 YouTube 配信	講師　馬渕　侑希乃氏（帯広市市民福祉部健康推進課健康第１係） 演題　新型コロナウイルス感染対策について 講師　国見　亮佑氏（にじいろほっかいどう事務局長） 演題　LGBT について　～性の多様さを受けとめる～ 講師　浦木　明子氏（食べもの探検家食の寺子屋 直歩塾代表） 演題　北海道の郷土料理”いずし”について　～発酵食品の魅力～ 講師　高田　敦史氏（帯広市総務部危機対策室危機対策課係長） 演題　帯広市の水害に備えて 講師　多治見　忠氏（帯広市教育委員会学校教育指導課指導主事） 演題　いじめ・不登校について身近なサインを見つける、親としての対処法
12	十勝 7 月 18 日（日）	午前半日	十勝の教育風土に根ざした、人間性豊かな子どもを育てる PTA 活動を推進しよう	講演会 オンライン対面式ハイブリッド	講師　森崎　博之　氏（TEAM　NACS） 演題　十勝の食の素晴らしさ～食育を通した親子のふれあいについて～
13	釧路市 10 月 6 日（水）	午後半日	「今　こころ輝いて　親として　人として」 「子どもの自主性、主体性を育むために」	講演会 YouTube ライブ配	講師　戸田　竜也　氏（北海道教育大学釧路校准教授） 演題　子どもの「心の声」に耳を傾ける子育て

≪資料≫　子育て研修会　講師一覧

敬称略

講　師　名	肩　　書	演　　題	開催地区
安原　政志	NPO法人 自然教育促進会理事長	親子で小樽の自然と遊ぼう	小 樽 市
野井　真吾	日本体育大学教授	子どもの体と心が求める生活とは	上川北部
せとなつか 奥山ちあき 西田　望美 佐藤　佳奈	表情筋パーソナルトレーナー uiYOGA顔トレ講師 エステティシャン・美肌エキスパート ＴＣマスタートレーナー・こころパレット インストラクター シンメトリー美人セラピスト	表情筋トレーニング・顔トレ マスクでも美人！好感度UP美眉レッスン わたしの宝物をみつけるこころパレット 50代を笑顔で楽しく迎えられる「自分で出来るセルフ頭蓋骨ケア」	旭 川 市
谷田　大輔	株式会社　タニタ前代表取締役社長	タニタの目指す食を楽しむ豊かな人生～タニタの社員食堂の秘話を交えて～	稚 内 市
田中　賢介	学校法人　田中学園理事長	Challenge with Dream	宗谷管内
八十嶋 聡子	一般社団法　人トラストコーチング	あなたはどっち？子どもの「やる気」を奪う口ぐせ、引き出す口ぐせ	留萌管内
中谷　通恵	NPO法人 お助けネット代表	コロナ禍の今、親と子の絆をどう深める？ ～パパの役割・ママの役割～	函 館 市
藤澤　義博	株式会社 manabit代表取締役	誰もが学び続けられるデジタル教育	渡　　島
三島　利紀	釧路工業高等専門学校一般教育科教授	子どもの可能性は無限！～親の肯定感の高さが子どもを育む～	オホーツク東部地区
狩野　照美	元網走市家庭児童教育相談室相談員	27年の時を経て ～多くの出会いに育てられて～	オホーツク西部地区
馬渕 侑希乃	帯広市市民福祉部健康推進課健康第1係	新型コロナウイルス感染対策について	帯 広 市
国見　亮佑	にじいろほっかいどう事務局長	LGBTについて ～性の多様さを受けとめる～	
浦木　明子	食べもの探検家 食の寺子屋 直歩塾代表	北海道の郷土料理”いずし”について　～発酵食品の魅力～	
高田　敦史	帯広市総務部危機対策室危機対策課係長	帯広市の水害に備えて	
多治見　忠	帯広市教育委員会学校教育指導課指導主事	いじめ・不登校について身近なサインを見つける、親としての対処法	
森崎　博之	TEAM　NACS	十勝の食の素晴らしさ ～食育を通した親子のふれあいについて～	十勝管内
戸田　竜也	北海道教育大学釧路校准教授	子どもの「心の声」に耳を傾ける子育て	釧 路 市

第68回　日本PTA北海道ブロック研究大会
南空知・岩見沢大会

【第１次案内】

突然、世界中に蔓延し、それまで当たり前とされていた社会活動や日常生活を奪った新型コロナウイルスの出現により、子どもたちもコロナ禍における新たな生活様式の実践、学習の在り方を強いられている状況です。おそらく、以前の生活に戻ることは容易ではなく、状況が改善されるまでは、教育現場でもコロナ禍を前提とした取り組みが優先されると思われます。

また、登校自粛措置によって学校に通えない状態が続き、子どもたちの学習機会が失われたことで、国が推進する「GIGA スクール構想」も前倒しされる形で急速に進んでおり、児童生徒に１人１台コンピュータの実現、またそうした環境を見据えた施策が今まさに現実となりつつあります。

南空知・岩見沢大会では、コロナ禍において初めて開催される大会として、そうした教育現場での新たなステージでの取り組みについて、皆様と情報を共有し、北海道ＰＴＡとしての枠組みの中で繋がりを持った力強い第一歩を踏み出していけたらと考えております。

コロナ禍の大会ではありますが南空知 PTA 連合会、そして岩見沢市 PTA 連合会がしっかりと感染対策に万全を期した中で、皆様をお迎えしたいと考えております。全道各地からの多数のご参加を心から祈念致しまして、ここにご案内を申し上げます。

第６８回　日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会　南空知・岩見沢大会実行委員会委員長　金田　貴彦

大　会　要　項

１　開催期日　令和３年１０月９日（土）

２　会　　場　【 分科会 】

・ホテルサンプラザ　（岩見沢市４条東１丁目６－１）

・岩見沢平安閣　（岩見沢市５条東２丁目）

・イベントホール赤れんが　（岩見沢市有明町南１－１４）

・自治体ネットワークセンター　（岩見沢市有明町南１－２０）

【 全体会 】

・イベントホール赤れんが　（岩見沢市有明町南１－１４）

３　主　　催　日本ＰＴＡ北海道ブロック協議会　（北海道ＰＴＡ連合会・札幌市ＰＴＡ協議会）

４　主　　管　岩見沢市ＰＴＡ連合会

５　副 主 管　南空知ＰＴＡ連合会

６　後　　援（予定）

公益社団法人日本ＰＴＡ全国協議会　文部科学省　北海道　岩見沢市

北海道教育委員会　岩見沢市教育委員会　北海道小学校長会　北海道中学校長会

北海道公立学校教頭会　岩見沢市小学校長会　岩見沢市中学校長会

岩見沢市小中学校教頭会　北海道高等学校長協会岩見沢支部

北海道高等学校ＰＴＡ連合会岩見沢支部　　その他

７　参 加 者　道内ＰＴＡ会員ならびに教育関係者

８　参 加 費　4,500 円

９　大会スローガン

「子どもたちに夢と生き甲斐のある未来を」
～大人は子どもの応援団　拡げよう笑顔の絆～

１０　大会主題

大人と子どもたちが共に育ち　人や組織が連携する共育の実践を目指して」
～夢を実現できる社会をつくる　大人の取り組みと役割～

１１　大会日程（予定）

【10 月　９日（土）】

9:50　10:00　11:20　12:00　15:00　15:40　16:20　17:50　18:05

運営者 受　付	運営打ち合せ会議 (分科会ごと)	受付	開会式 分科会	移動	全体会	記念講演	閉会行事

12　記念講演

講師　宮　本　延　春（みやもと　まさはる）氏

演題（仮）「オール１の落ちこぼれ、教師になる」

～　○○○○○○○○○○○○○　～

・プロフィール

1969 年、愛知県に生まれる。小学生の時にいじめで学校嫌いになり、落ちこぼれて高校へは進学できず。15 歳中卒で見習い大工に就職。その後、16 歳で母を亡くし、18 歳で父を亡くし天涯孤独の身となりフリーターとなって自分の人生を模索する。23 歳でアインシュタイン博士の番組を見て、物理学に興味を持ち独学で勉強を始める。24 歳で定時制高校へ進学し 27 歳で名古屋大学に合格して大学院まで進み 9 年間物理の研究に没頭。36 歳で、私立豊川高等学校の教諭に採用され現在に至る。

１３　分科会構成とテーマ

領域		分科会テーマ	担当
第１分科会	組織･運営	いまいちど考えよう PTA の存在と意義	北海道ＰＴＡ協議会
第２分科会	家庭教育	人生 100 年時代における 親の学び、子の学び	北海道ＰＴＡ連合会
第３分科会	学校支援	子どもたちに楽しい学校生活を！	札幌市ＰＴＡ協議会
第４分科会	地域連携	地域で協働し親子を支えるあたたかな子育て支援	札幌市ＰＴＡ協議会
第５分科会	情報教育	GIGA スクール時代における 新たな教育の在り方	北海道ＰＴＡ連合会
特１分科会	地域独自の テーマ	語り継ぐふるさとの炭鉱(ヤマ)の話 ～地域によるアクティブラーニングの実践～	岩見沢市 ＰＴＡ連合会

１４　南空知・岩見沢大会におけるお問合せ

第６８回日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会　南空知・岩見沢大会実行委員会

【岩見沢市ＰＴＡ連合会事務局】

〒068-0053 岩見沢市北本町西２丁目２－１　岩見沢市立緑中学校内

☎：0126-22-0669　FAX：0126-25-7143　e-mail：midoricv@mc.city.iwamizawa.hokkaido.jp

Ⅶ　北海道ブロック教育講演会

令和３年度　「北海道ブロック教育講演会」　開催要項

北海道ブロック協議会

〈開催にあたって〉

○本講演会はコロナ禍での開催となりますが、その感染リスクを回避し安全に実施するため「オンライン開催(ライブ配信)」とします。

○教育講演会を通し、会員の見識を高め、ＰＴＡ活動への意識高揚・実践に繋がる気付きの機会となることを目的とします。

（１）主　　催　　北海道ブロック協議会

（２）主　　管　　北海道ＰＴＡ連合会

（３）参 加 者　　道内ＰＴＡ会員

（４）参 加 費　　無料

（５）開催日程　　10 月 9 日(土)　13：00～14：35

①講師紹介

②講演　演題　「オール１の落ちこぼれ、教師になる」

～育もう子どもたちの肯定感～

講師　宮本延春（みやもと　まさはる）氏

〈プロフィール〉

1969 年、愛知県生まれ。小学生の時にいじめで学校嫌いになり、落ちこぼれて中卒で働き始める。10 代で両親と死別し、兄弟もなく天涯孤独となる。23 歳のときテレビ番組を見て物理学に興味を持ち、24 歳で夜間定時制高校へ進学し、27 歳で名古屋大学に合格して大学院まで進み、9 年間物理の研究に没頭する。その後、母校の教師をへて現在は自閉症の息子のケアをメインに、育児・家事をしながら、講演や執筆を通して、子どもや大人を元気にしたいと毎日を励んでいる。

著書に、『オール１の落ちこぼれ、教師になる』(角川書店)『未来のきみが待つ場所へ先生はいじめられっ子だった』(講談社)『キミのためにできること』(ＷＡＶＥ出版)『宇宙を感じる七日間』(プレアデス出版)などがある。

（６）視聴方法

①北海道ＰＴＡ連合会ホームページに入り(北海道ＰＴＡ連合会で検索)「北海道ブロック教育講演会」のバナーをクリックしてください。

②ログイン画面でＩＤとパスワードを打ち込んでください。

※ＩＤとパスワードは９月下旬に各単Ｐから各家庭に配布していただく２回目の案内文書にてお知らせします。

③画面に表示される[北海道ブロック教育講演会]の再生ボタンを押すと視聴できます。

※講演会はライブ中継ですので開始時刻になりましたら配信されます。

※なお、当講演の動画を録画・録音することは著作権法により厳禁といたします。

令和３年度 *北 海 道 ブ ロ ッ ク 教 育 講 演 会*

10 月 9 日(土)、会員の見識を高め、ＰＴＡ活動への意識高揚・実践につながる気付きの機会となることを目的とし、新型コロナウイルス感染リスクを回避するため「オンライン配信」として開催されました。

講　師	宮　本　延　春（みやもと　まさはる）　氏（エッセイスト・作家）
演　題	「オール１の落ちこぼれ、教師になる」～育もう子どもたちの肯定感～

宮本氏は、ご自身の経験に基づくお話、そしてユーモアも交えながらのお話に、あっという間に時間が過ぎました。以下、講演の内容を記します。

【共感的理解】

子どもに対して、まず共感的理解という立ち位置に立ってほしい。「楽しいは楽しい」「悲しいは悲しい」と、子供から受け取ったボールはいったん受け取ってから返してほしい。大事なことは１点目、コミュニケーションの基本は肯定から始めること。二つ目は、大人の価値観でなく子どもの価値観を尊重する。三つ目は、あらゆる想像力を働かせて、どういう気持ちになっているか察するというか、気持ちに寄り添ってほしい。いじめられていることを話してくれた時は、「よく話してくれた。勇気がいただろう。お前の味方だぞ」と、これで勇気がもらえる。

【適した学習方法】

「勉強しなさい」と言われてうれしい子、燃える子は一人もいない。逆に「やるな」はやりたくなる。子どもを導きたいときに、指示や命令は反発する。子どもであっても自分の行動は選択したい。したがって選択と提案がいい。

自分で選んだほうがやる気が出る。いろいろなタイプの子がいるがダメな子は一人もいない。いるとすれば時間が必要なだけ。適した方法で一定量こなせば絶対に伸びる。伸び悩んでいるときどんな方法で取り組んでいるのかという目線を持って、アドバイス出来たらよい。適した方法の探し方には、認知特性（視覚、聴覚、言語）にヒントがある。その子にとって言語優位なのか、視覚優位なのか、見極めたい。

【当たり前の反対は？】

段階的に考えると、「当り前じゃない」→「当り前じゃない」ということは特別→不幸ではなく幸せでいられることが特別→特別なことはありにくい→漢字で書くと有り難い→もう一つの読み方→ありがたい→「い」を「う」に代えると有り難う→ありがとうとなる。誰かが自分のために何かをしてくれるのに当たり前という理由はない。必ず感謝することが含まれている。感謝の種をまく。「毎日最低 5 回はありがとう」という言葉を使ってください。ありがとうは人を傷つけません。親から言われてうれしい言葉は「ありがとう」です。子どもの存在価値を高めます。

【評価欲求を満たした評価方法】

人の欲求には段階がある。それぞれ満たされていく流れは生理的欲求→安全の欲求→所属と愛の欲求→評価欲求→自己実現の欲求である。自己実現に向けて「夢を持て希望を持て」と子どもに言うのであれば、その前段階の欲求が満たされているか目線を持たなければいけない。評価欲求に目を向けます。自己評価は他者評価と表裏一体である。大人から〇をいっぱいもらった子は自分にもたくさん〇を出す。自己肯定感が低いとルール・思いやり・意欲が安定しない。自己肯定感を育むためには小さな成功体験の積み重ねです。評価欲求を満たしてあげる。人を評価する方法には３種類ある。Doing 行動・Having 何を持っているのか・Being 存在である。Doing と Having に〇を出してあげる。事実は一つだが見方は二つある。10 問テストで１問しか合っていない時は次２個頑張ろう。全問不正解の時は、見せてくれてありがとう。難しいときはありがとうを使いましょう。子どもの自尊心が満たされるのは一生懸命に頑張ったことを認められた時でなく、ほめてもらえた時ではなく、失敗しても抱きしめてもらえた時です。愛してもらえる存在です。子どもの目がキラキラ輝いてもらうには、大人がすべてのことを楽しんで、その笑顔を見て子どもたちは笑顔になります。

Ⅷ　北海道の特色ある実践事例発表

令和３年度　「北海道の特色ある実践事例発表」　開催要項

北海道ブロック協議会

〈開催にあたって〉

○「北海道の特色ある実践事例発表」はコロナ禍での開催となりますが、その感染リスクを回避し安全に実施するため「オンライン開催」とします。

○全道各地区の特色ある実践を全道のＰＴＡ会員に発信し、ＰＴＡ活動のさらなる充実・進化を目指します。

（１）主　　催　　北海道ブロック協議会

（２）主　　管　　北海道ＰＴＡ連合会

（３）参 加 者　　道内ＰＴＡ会員

（４）参 加 費　　無料

（５）「北海道の特色ある実践事例発表」の配信について

①開催期間　　令和３年10月17日(日)～12月19日(日)

②実践発表ＰＴＡ

〈テーマ１〉「ＰＴＡの在り方について」　(旭川市緑新小、帯広市Ｐ連)

〈テーマ２〉「親の学び、子の学び」　(富良野市Ｐ連、北斗市Ｐ連)

〈テーマ３〉「これからの学校支援について」　(札幌市中央区Ｐ連)

〈テーマ４〉「地域で協働し親子を支えるあたたかな子育て支援」　(札幌市西区Ｐ連)

〈テーマ５〉「GIGA スクール時代における教育の在り方」　(網走市網走小)

「学校と家庭・地域社会が連携して情報活用能力を育む泉野小学校の取組」

(苫小牧市泉野小)

〈テーマ６〉「語り継ぐふるさとの炭鉱（ヤマ）の話

～地域によるアクティブラーニングの実践～」　(岩見沢市Ｐ連)

（６）視聴方法

①北海道ＰＴＡ連合会ホームページに入り（北海道ＰＴＡ連合会で検索）「北海道の特色ある実践事例発表」のバナーをクリックしてください。

②ログイン画面でＩＤとパスワードを打ち込んでください。

※ＩＤとパスワードは９月下旬に各単Ｐから各家庭に配布していただく案内文にてお知らせします。

③画面に「北海道の特色ある実践事例発表」のテーマごとのボタンが表示されますので、ご視聴になりたいテーマを選択してご覧ください。

テーマ１『地域とともにあるＰＴＡ活動をめざして』
～地域・家庭・学校の連携を生かして～

☆発表者　旭川市立緑新小学校ＰＴＡ
会　長　工　藤　瀧　也

１　はじめに

旭川市立緑新小学校は，緑が丘・神楽岡地区の児童数の増加に伴い昭和５８年に開校。平成４年の開校１０周年に建てた記念時計塔が数年前から不調になったため，今年６月には，旭川市イメージキャラクターである “あさっぴー” と“ゆっきりん”の絵柄を入れてリニューアルした。

２　旭川市立緑新小学校のＰＴＡ活動（コロナ以前）

本部・事務局は，活動全体の企画・運営をはじめ，ＰＴＡレクも行ってきた。文化・広報部は，給食調理会を企画し，給食の献立で子どもたちに人気のある“揚げパン”の　調理方法を栄養教諭に指導してもらい大好評だった。広報誌こだまについては，以前は年度末に冊子を発行してきたが，協議を重ね学校だよりにＰＴＡ活動を紹介する記事を載せることにした。生活環境部は，交通安全街頭指導や廃品回収，親子ガラスふきなどを行ってきた。学年部は，６学年部では伝統的に「お化け屋敷」を作って，お楽しみ会を企画してきた。

３　ＰＴＡ活動の特色（コロナ以前）

（１）本部・専門部役員の選考は，平成２８年から前年の内に人選を済ませるようにした。このため，令和元年度の日曜参観・ＰＴＡ総会には，１０割近い保護者が参加。

（２）ＰＴＡ活動の裾野を広げたり教育活動の支援をしたりすることをねらいとして，ＰＴＡサポーター制度を令和元年からスタート。学校行事やスキー授業などの支援をしてきた。

（３）もともとグラウンドが狭い上に，以前から運動会の観覧席の区割りをしていなかったため苦情が多かった。そこで，測量士などの役員でグラウンドを測量して，杭打ちや設計図を作成。

（４）旭川南高，旭川工業，緑が丘中，緑が丘小，西御料地小，緑新小で組織された，「緑が丘地区小中学校・高等学校　６校ＰＴＡ連絡協議会」があり，「丘の上音楽祭」や研修会などを開催。

（５）地域・家庭・学校が連携して児童の健全育成のための「緑新っ子を育てる会」を組織して，交通安全指導親子理科実験教室，地域作品展，学校ボランティアなどの活動を行っている。

今年は規約を改正し，ＰＴＡ本部役員ＯＢやプラタナス商店会会長も運営委員会に加えて，より地域との結びつきを強化し，将来的には商店会で地域学習や体験活動を展開する。

４　おわりに

令和２年２月頃から感染症対策のため，ＰＴＡ活動は大幅に変更している。総会は紙面開催にしたり，打ち合わせはオンラインやメールを活用したりしている。ＰＴＡサポーターは運動会や　学習発表会の入場者の受付で健康確認をしている。

一方，令和２年１月に「学校運営協議会」が組織され，地域とともにある学校の体制づくりが拡充された。今後も，かわいい緑新っ子たちの笑顔のために力を合わせて活動していきたい。

テーマ１「OBI-P　STYLE」PTAの組織進化
～３Gから新しい姿へ～

発表者　帯広市PTA連合会　会　長　谷保　寿彦
前会長　金尾　泰明

１．コロナ禍前に持っていた危機感

2020年から始まった今回の新型コロナですが、帯広市PTA連合会では、2018年の段階でいずれ来る社会の構造変化と従来のPTAに対する組織疲弊へのギャップを感じており、前例踏襲と３G(義務、犠牲、我慢の頭文字)をどう正しく認識するのか、そしてそのギャップを埋めるためにどのように連合会から各PTAに問題を提起するのか、このことを基軸に特別委員会を設置し、１年間の議論を一つの考え方にまとめ、設立70周年記念大会で次の10年ビジョンとして発表いたしました。

それが「OBI-P　STYLE」です。OBI-P　STYLEは、大人（O）も勉強（B）一緒（I）にPTA（P）の頭文字、そしてOBIHIROのPTAとしての新しい姿を現した造語ではありますが、前例踏襲が習慣となり大人同士が学びあい子どもに還元するという従来のあるべき姿が薄れてしまった
「親学」が改めて必要なこと、そして時代に即した必要な学びを保護者、教師が率先して行いPTAに反映させることを目的とすること、これを次の時代に向けての目標とすることを宣言したものです。

２．OBI-P　STYLEの3本の柱、そして浸透

OBI-P　STYLEは、大きな学びの3本柱を定義しました。

(1)地域との新しい連携＝「いのち」をキーワードに高齢化や町内会など姿を変える地域との連携

(2)時代を予測し新しい価値観を学びに変える＝新学習指導要綱への理解と保護者の把握

(3)PTA組織の最適化＝３G(義務、犠牲、我慢)から３D(出来ることを出来る人が出来る限り)への進化

以上を新しい目指すべき価値観と定め、それぞれの各PTAに理解を求めました。

まずは、難しければ意味がない！興味をもってもらってなんぼだ！という戦略的な考えからどんな場面でも「おびぴースタイル！！」というコールを一緒に行い、笑い（失笑）の中から名称を覚えていただきました（ダサい名称だからこそ効果がありました）。またどんな場面でも、笑いと深い考えを同居させることにこだわりをもち、OBI-P　STYLEの中身についての説明には労力を惜しみませんでした（校長会や教頭会での説明、会長会の新しい設置など）。

結果として、ある意味ではキャッチーなコピー、そしてコロナ前の時期に勇気をもって前例踏襲と義務感を公で認めきったことが大きな反響を呼び、急速な浸透と改革に二の足を踏んでいた各PTAの背中を押す運びとなりました。

残念ながら、その後すぐに新型コロナが発生し、結果として、望んではいない「PTAの負荷軽減」に結びついてしまいましたが、組織改革とは決して苦しいものではなく、現状に対し批判を恐れず認める勇気、笑われても覚えてもらうことの大切さ、そして子どもたちの未来には、大人たちが変わることが何よりの教えなのだという理解が揃えば、アフターコロナのPTAとしての新しい姿を、それぞれが創り上げることが出来ると信じています。組織は無理に変えるものではなく、「やってみたら出来てしまった」の小さな積み重ねで出来上がっています。無理せず、楽しくやってみましょう。

３． 現在の取り組み、そしてこれから

⑴ 組織の最適化

帯広市PTA連合会の組織改革を先行し、各単位PTAへの模範を示すとともに、様々な時代の変化に即した「PTAのカタチ」を提唱していきます。

・役職のスリム化、役員人数の適正化、地域ボランティアとの活動の整合

・行事ボランティア制の導入

・会則を柔軟に変更できる組織体制へ

⑵ 地域との連携

推進されるコミュニティ・スクール（以下、CS）の中で、単位PTAの役員が果たす役割を、CS全体組織を見渡しながら把握・認識することが必要となります。PTAは、あくまでもCSを担う一部であり、率先するのではなく、横の繋がりを深めることがまずは重要であると思います。

意外と知られていない地域ボランティアの活動を知ることにより、短いPTA活動だけではなく、生涯にわたり、地域の為に貢献出来るヒントを得ることが出来ます。

上記①でも述べましたが、学校に過度な負担をかけない為にも、他のボランティア活動をお互いに知り、重複する行事の削減や活動の再分配を話し合いながら進めていくべきだと考えます。

大人も勉強

元来PTAとは、保護者と教師の組織であります。「子どものために」は、間接的であるべきではないでしょうか？

キャリア教育を学校で教える教員は、もうキャリア教育を受けなくて良いのでしょうか？親たちも家庭や職場以外でのキャリア教育が必要ではないでしょうか？

いくつになっても、違う世代の仲間とともに、「今」を学び続ける必要性はあると思われます。PTA活動は、自分自身の成長の為にある、と我々は考えます。

テーマ２「受け身の学びから主体的な学びを求めて」
～聞くだけのＰＴＡ研修会の改革「大人の学校」～

発表者　富良野市立東小学校ＰＴＡ会長　松下寿美枝

１．現状のＰＴＡ活動から見えてくる課題

社会の変化と共に，ＰＴＡ会員の意識にも様々な変化が生じています。従来，昼間に活動するＰＴＡが見られましたが，現代社会において，共稼ぎ世帯がほとんであることを考えると，それでは参加できる会員が限られ，役員や委員のなり手もいない現状にあります。夜間や休日における活動を多くしたり，多様な時間帯での活動を工夫したりすることが課題となっています。特定の人に負担がかかったり，一部の人で会を動かしていたりする現状では，民主的な社会教育関係団体としてのＰＴＡの存在意義が薄らいでいます。

２．ＰＴＡの果たすべき活動とは何か？ＰＴＡ研修会の改革から考える！

保護者の側からは教育の問題やＰＴＡ活動について学校に依存する傾向があります。また，学校側や先生方にも，多少閉鎖的な慣行や雰囲気があって，学校の抱える課題や現状を地域に知らせることが少ないなどの不安感を保護者がもってきたことも事実です。しかし，保護者は家庭教育の責任者です。教師は学校教育の専門家です。相互に研鑽する関係性の構築が初めの一歩になります。社会環境の急激な変化にどう対応したらよいか迷っている保護者や，家庭の行うべきしつけを学校に期待したり，過保護・過干渉に流されたりする現象などを的確にとらえ，家庭教育にはどのような手立てが必要なのかを考える機会が大切です。そのための研修会講演会，自主研修等を行うこと，そして参加することがとても大切ですが，形骸化している実態があります。

そこで，富良野市ＰＴＡ連合会は，ＰＴＡ研修会のあり方について考え，改善を図る取組を進めました。大切にしたのは，会員が受け身では無く，参加して良かったと思える研究会（研修会）にするということです。話を聞くだけの研究会（研修会）を止め，会員参加型の研究会（研修会）にするために以下のように構想しました。

３．「大人の学校」という発想「子どもの立場で今の教育を考える」

※年３回実施(各学期１回)しました。第１回は，「いのちをいただく」という教材を使って，生命尊重について考えました。今学校で行われている道徳の授業を実感しました。

※第２回は，外国語の授業です。ＡＬＴと連携して，実際の授業を再現しました。初めて受ける外国語の授業に参加者からはとても楽しかったという感想が聞かれました。

※第３回は，保護者会員が講師になって，コーチングについて学びました。全て，保護者の手によって運営しました。

テーマ２「親 の 学 び 、子 の 学 び」

発表者　北斗市ＰＴＡ連合会　会長　佐　藤　敦　宏
（北斗市立谷川小学校ＰＴＡ会長）

○　「当たり前」が「当たり前でなくなった」

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、緊急事態宣言が出され、学校が臨時休業になり、不要不急の外出自粛が要請されるなど、これまで経験したことのないことが起こりました。予測困難な時代、私たちと子どもたちは、これから、どう学ぶか、どうあるべきか、コロナでできなかった事もありますが、北斗市ＰＴＡ連合会、谷川小学校・北斗市の取組を紹介します。

○　「親の後ろ姿を！時には子どもと一緒に！！」

「生涯学習」という言葉があります。新型コロナの影響で世の中に閉塞感がある今だからこそ、「学びの保障」は子どもたちだけでなく、親である私たちも・・・。

取組・実践例

＜子育て全般＞

「市ＰＴＡ連合会研究大会」⇒講演会と情報交換会があり、教師・保護者の学習の場としている。
昨年の日Ｐ北海道ブロック函館大会は中止となりましたが、北斗市ではオンラインで講演を配信し、研究大会を実施しました。

＜交通安全＞

「通学路の安全を進める大会」⇒市ＰＴＡ連合会を含め４団体が主催。講演や提言をもとに　　交流する。各学校では「交通事故抑止　旗の波運動」がある。

＜体力づくり＞

「教育長杯 北斗市ＰＴＡ交流ミニバレーボール大会」⇒ 各学校でチームを作って参加しますが、
子どもたちが練習相手となっている学校も多数あります。

（北斗市の取組になりますが）

「ラジオ体操コンクール」⇒　小中学生の参加が多いですが、大人も参加します。

（以下は谷川小学校の取組）

＜ふるさと学習＞

「アイヌ教室」⇒アイヌ文化博物館から講師を招き、平成28年から実施。保護者も参観可能です。

「わくわくワークショップ」⇒保護者を含め地域の方を講師にして、子どもと一緒に学び合う。

（講座名：羽ばたき飛行機を飛ばそう、ポストカード作り、ふっくりんこで手巻き寿司
ペインティング、ロープクラフト、カプラに挑戦、スポーツ・ゲーム
火おこし体験＆空き缶炊飯体験）

＜インクルーシブ教育＞

「車いすバスケットボール教室」⇒函館にあるチームを招待し、保護者はスタッフとして参加。デモンストレーションゲームで対戦の予定をしていました。

○　課題

国のＧＩＧＡスクール構想によって、子どもたちに１人１台タブレットが準備され、授業に使われ始めています。家に持ち帰って使うことも想定されています。その際、私たちが情報モラルを含めて、機器の操作方法について知っておく必要があります。タブレットだけにかかわらず、様々なことが急速に進歩する現代社会です。私たち大人がどんなことに対しても、受け身にならず、常に学ぶ姿勢を忘れないことが大切だと思います。

わくわくワークショップ
ペインティング教室

テーマ３「これからの学校支援について」
～単Ｐ活動と区Ｐ連活動の役割～

発表者　札幌市中央区 PTA 連合会　副会長　長谷川　建

１．はじめに

札幌市 10 区のうち、中央区は札幌駅から南西に広がる商業地と住宅地、山間部の面積 46 ㎢、人口 25 万 300 人と人口密度の非常に高い区です。札幌市中央区 PTA 連合会は、25 校の単位 PTA から構成され、園児・児童・生徒数 13,936 名、PTA 会員 12,510 名の規模となっています。昨年 11 月、札幌市 PTA 協議会が各単位 PTA にアンケートを取りました。その結果と今年 5 月に調査した各単 P の活動から学校支援という視点で考えてみました。

２．単位 PTA の活動

昨年は「書面総会」からスタートし、子どもたちや先生方との接触に配慮し、活動自粛・規模縮小がほとんどでした。ボランティア活動への移行、教職員が手薄となる活動への重点化、「放送でのフェスティバル」など新たな取組を実施した PTA もありました。

＜三角山小学校保護者と先生の会＞

昨年は、活動を自粛しながらも「図書ボランティア」「花ボランティア」が、行事のたびに放送での読み聞かせや学校を花で飾るなど、子どもたちのためにと活動しました。今年度は、学校と保護者との一体感が生まれるよう数年前から作成・販売されたオリジナル T シャツづくりを復活させました。子どもたちや先生方を応援する気持ちが凝縮されています。

＜三角山小Ｔシャツ＞

＜宮の森中学校 PTA＞

昨年は、生徒と教職員の健康と安全に配慮し、活動の自粛が最大の応援ではないかと考えました。例年文化祭で開催したバザーは中止し、オリジナルどら焼きの配付にとどめました。そして、この自粛期間の中で、活動の見直しと規約の改正を行うこととしました。今年度の PTA 総会で規約の改正、教職員への支援を第一としスリム化した活動計画を提案しました。

３．中央区 PTA 連合会の取組

中央区 P 連では状況に応じて公共施設での会議、更には WEB 会議を開催し、こうした各校の情報の交流をしています。今年度も、昨年同様、各学校への支援物資の提供や教育講演会の動画配信を企画するとともに「親子ふれあい事業」として大倉山ジャンプ競技場と藻岩山ロープーウェイ乗車券のプレゼント企画を実施しました。

４．学校支援

未だ経験したことのない感染症との戦いを昨年度から続けてきた私達ですが、この経験はこれまでの PTA 活動を見直すきっかけとなりました。学校支援となる PTA 活動には、まず、情報の収集が大切です。コロナ禍においても様々な取組がなされていて、自校の活動への大きなヒントがあります。そして、活動の趣旨を保護者と教職員が共有することが必要です。さらに、この活動が子どもたちの笑顔に続く活動となるのか、先生方に負担をかけていないか、保護者の一部が無理をしないかと常に問いかけながら活動を進めていくことが大切だと感じました。

テーマ４「地域で協働し親子を支えるあたたかな子育て支援」

発表者　札幌市西区ＰＴＡ連合会会長　橋本正行

１．西区Ｐ連(略称)の地域との連携

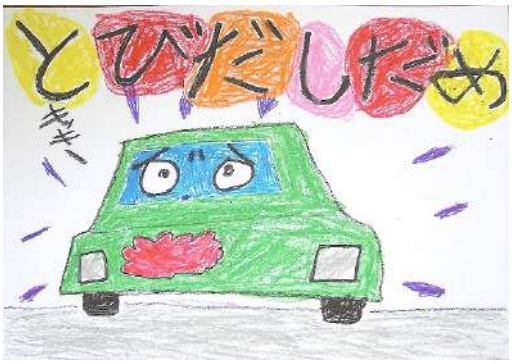
西区Ｐ連では、区内幼１、小２０、中１０計３１校園の子どもたちを対象に、札幌市西区交通安全運動推進委員会、札幌市ＰＴＡ共済会との共催で、交通安全のポスター、イラスト、川柳、標語等を募集する「子ども作品コンクール」と札幌市西区環境まちづくり協議会との共催で環境問題をテーマに交通安全と同様の「子ども作品コンクール」を長年行っています。令和２年度１６校１９７３作品の応募があり、受賞者５４名でした。いくつか作品を紹介します。

【交通安全　川柳・標語部門】

西区交通安全運動推進委員会　最優秀賞　**車から　見えているかな　わたしたち**(発寒西小２年)

西区ＰＴＡ連合会　会長賞　**自転車の　ヘッドライトは　命綱**(発寒南小５年)

【交通安全　ポスター・イラスト部門】



↑西区交通安全運動推進委員会優秀賞(発寒小２年)

【交通安全　札幌市 PTA 共済会標語コンクール】

↑最優秀賞(発寒南小６年)は**交通安全旗にプリントされ西区内全３１校園に配付されます。**

【環境問題　川柳・標語部門】

西区環境まちづくり協議会　最優秀賞　**簡単に　世界汚れる　君の手で**(発寒西小６年)

西区ＰＴＡ連合会会長賞　**見ていたぞ　ゴミすてたよね　さりげなく**(八軒北小５年)

【環境問題　ポスター・イラスト部門】

西区環境まちづくり協議会　最優秀賞

(西園小５年)→

２．活動を通して

活動を通して、交通安全では、大人の視点では気づかなかった死角の指摘、ながら運転の危険性など、大人も改めて考えさせられます。環境問題では、レジ袋の有償化、エコバックへの関心の高さ、ポイ捨てによる環境破壊への危機感がうかがわれ、また、子どもたちの生物、自然に対するあたたかな愛情の深さが感じられ、共存していける未来のためにできることへの意識の高さが見られます。

このように、地域とタイアップして子ども作品コンクールを続けていくことにより、子どもの心理を知ることができ、一つの地域連携の在り方にもつながると思います。ＰＴＡとの地域連携には様々な形があると思います。進めていくにあたっては、子どもにとっても、ＰＴＡにとっても、地域の方々にとっても、あたたかく互いの絆を強く結ぶこと、長く続けられることが大切かと思います。

テーマ５「GIGAスクール時代における教育の在り方」

～学校と家庭が連携した新しい学びのスタイルを目指して～

網走小学校ＰＴＡ会長　佐藤　孝洋

網走小学校は令和元年に開校百周年を迎えました。開校以来、地域コミュニティーの中核として学校とＰＴＡが共に手を携えて歴史と伝統を築いて来ました。そのような網走小学校のＰＴＡの役員として携わってきましたが昨年、突如として起きた未曾有の事態に日常の環境は大きく変わっていきました。

特に学校は、新型コロナウイルス感染拡大、そして、複数回に渡る緊急事態宣言の発令に大幅なカリキュラムの見直しを余儀なくされました。もちろんＰＴＡ活動も同様です。予定していた活動は中止、もしくは延期となり、『当たり前にできてきたことができない』という現実に、混沌とした日々が続きました。

現在の学校現場では、「新しい生活様式」へと円滑に移行するために保護者や地域と連携した取組を進めることが求められています。網走小学校でも、子供たちの学びを保障するために先生方が様々な取組を進めています。そこで、ＰＴＡとして学校と共に歩みを進めるためにできることはないかと模索する中、学校から相談を受けました。内容は、学校で実施したＳＮＳ使用のアンケート結果において多くの子供たちにオンラインゲーム上での課金問題やＬＩＮＥでのトラブルが見られるとのことです。

近年は、ＩＣＴ機器やＩＣＴ環境の飛躍的な発展により子供たちも含めて、私たちは多くの便利さを手に入れましたが、一方で、その便利さは目に見えない多くの危険を伴っているのが現実です。そのような中でネット社会に対して正しく向き合う力を育んでいかなければならないと考えます。

「親子情報モラル教室」の様子から

そこで、ＰＴＡとして、何かできるのか模索する中専門家の力をお借りして「親子情報モラル教室」を開催しました。講師は、網走市内在住で、これまで某大手ＩＴ企業のオフィシャルインストラクターをされている伊藤　亮人様です。「親子情報モラル教室」は、Zoomを使った講演形式として行いました。この講演で伊藤様からは次のようなお話をいただきました。

〇子供の自律を目指した「ルールの工夫」について

「子供に考えさせて自ら設定したルールにすること」「約束を守れないときの原因を考えさせ、守るときの具体的な行動をルールにすること」など、大人から指導の工夫が必要であること。

〇大人同士がしっかりとつながるということ。ネット社会が発達するほど「大人同士のコミュニケーション」が大切であり、ネット・コミュニケーション以前に、日常のコミュニケーション能力や、ネットモラルの正しい知識と判断力が必要であること今回の講演で学ばせていただいたことを基に、子供たちの生活をより安全で健康的なものにするよう学校と家庭が連携し、取り組んでいきたいと思います。

網走小学校のオンライン授業の様子

その他にもＧＩＧＡスクール構想に伴う、新しい教育活動が校内外に広がりを見せています。１人１台端末の導入により、子供たちは、授業でタブレットを使用して学ぶ他に家庭にも持ち帰って学習をするなど個に応じた学びが実践されています。網走小学校でもＧｏｏｇｌｅ　ｍｅｅｔを使ったオンライン授業が実践されています。普段の対面学習と同じように、教師がライブで家庭にいる子供たちに語りかける様子から、学校教育のツールとしてＩＣＴは、必要不可欠なものとなってきたと実感しています。

だからこそ、これからの教育を支えるためには家庭での協力を促していく必要性を強く感じます。網走小学校ＰＴＡは、学校が目指す新しい教育を支援しながら共に歩み続けていきたいと思います。

テーマ５

『学校と家庭・地域社会が連携して情報活用能力を育む泉野小学校の取組』

発表者　苫小牧泉野小学校　ＰＴＡ会長　大西英俊

１．活動内容と経過

（１）プログラミング教育事業研究実践校について（令和元年度より）

令和２年度からプログラミング教育が小学校に本格導入されることになった。

それに先駆けて、本校は「プログラミング教育事業研究実践校」に指定され、プログラミング教育の必修化に向けた準備として、プログラミング教育の年間指導計画を作成したり、児童がプログラミングを体験する授業の指導計画を作成し授業を公開したり、研究成果を発表したりすることになった。

（２）家庭と連携した取組について

文部科学省が打ち出した「ＧＩＧＡスクール構想」を元に、本校ではこれらの学びをより効果的に行うため、家庭と連携して次の取組を行っていくことになった。

・タブレットＰＣが家庭に貸出しされた場合の家庭におけるサポート

・ｅライブラリを活用した家庭学習の取組

（３）情報モラル教育について

①市Ｐ連の取組

・「情報機器利用の約束」の作成（R1/1）

苫小牧市ＰＴＡ連合会と苫小牧市教育委員会が協力して「情報機器利用の約束」を作成した。

②エリア３校の取組

・「電子メディア講座」（講演会）の実施（R1/11/1）

近隣の啓明中学校、澄川小学校との三校地区交流会を開催し、授業参観後に「子どもたちの未来を守るための電子メディア講座」と題して、こどもとメディア北海道の櫻井裕司氏を講師に招き講演会を行った。

③本校ＰＴＡ独自の取組

・アンケートによる実態把握（R3.2）

・生活リズムチェックの取組（８月・１月）

・情報モラル学習会の実施

・泉野小版「情報機器利用の約束」の作成

・保護者へのＰＴＡだより等を通しての啓発

２．活動の成果と課題

（１）成果

・講演会やアンケートを通して、情報機器使用のマナーや家庭での約束等を話し合う家庭が増えてきた。今後は全家庭に浸透させていくことが重要である。

・中学校とは保護者も重なる家庭も多いことから、エリアでの連携した取り組みは効果的であった。

（２）課題

・コロナ禍により難しかったが、今後はプログラミング教育の授業や情報機器を用いた授業、情報モラルの授業など学校で学習している内容を保護者も参観し、あるべき姿をともに考えていく機会を増やしていきたい。

・コロナ禍により機会がもてなかったが、今後はＰＴＡ事務局からの一方向の発信だけでなく、保護者同士が膝をつき合わせて交流し合える場を作っていきたい。

テーマ６「語り継ぐふるさとの炭鉱（ヤマ）の話～地域によるアクティブラーニングの実践」
『地域特有の資源を知って、自慢できる自分のまち』

発表者　NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団
事務局長　北口博美

● **取り組みの目的**

かつて石炭は北海道の発展と日本の近代化に欠かせないエネルギー資源でした。重要な役割を担ってきた石炭が自分たちの住んでいる空知地域で採掘されていたと知る事で、まちに興味を持つきっかけになってほしいと思います。炭鉱が閉山した後に残された関連施設など形のあるもの、炭鉱町で受け継がれている文化や暮らしなど形のないもの、これら有形・無形の「炭鉱の記憶」を実際に見て、当時の様子や思いを伝えていき、子供達に「自分が住んでいるまちの歴史に興味を持ち、まちを好きになってもらいたい」という思いで実践しています。

● **具体的な実践**

最近は地元の小・中・高校から、歴史を学習したいという依頼が増えてきています。その中で、今年３年目となる岩見沢市内の中学１年生のふるさと学習を例にあげます。

この学校では事前授業と炭鉱関連の施設をめぐるフィールドワークを実施しています。実際に現地を見て何かを感じてもらい記憶に残してほしいと考えています。

フィールドワークでは、いつも何気なく使っている駅や線路、古い建物などを見てもらいます。岩見沢が全国で数少ない「鉄道のまち」として発展したのはなぜか。何にどう使われていた建物なのか。成り立ちや歴史を説明してその意味がわかると、今までとは違うものに見えてくる様子でした。実際に石炭を掘っていた炭鉱跡地へも行きます。生徒たちに虫が嫌いだとか靴が汚れていやだとか言われる事もありますが、外でこのような体験をする事も後で記憶に残るものだと思います。移り変わる様々な場所と現在の様子を比べ、便利で豊かな生活はどこからきているのかという事も考えてもらいたいと思います。

このようなフィールドワークを実践すると、大人にもまちにも影響を与えます。地域に住む方にはガイド役をお願いする事もあります。改めてまちの歴史を考えるきっかけにもなり、経験談を話す事でかつての誇りや自信を取り戻しているかのようです。せっかく見学に来るのだからと、安全に子供達を迎え入れるため草刈りなど周辺整備も楽しそうにされています。

いつも変わらないまちに人が来ることによって、注目され、人が人を呼び、地域の活性化にも繋がります。子供達は初めて見てきた場所の話をしたくなり、親や祖父母と話すきっかけができます。その話から自分のルーツがわかる事もあります。石炭がもたらした日本の発展、近代化を担った原動力、それが自分のまちの歴史のひとつだったと知る事により、誰かに自慢したくなる、そしてさらに興味を持ち、ここが自分のまちという意識が高まっていきます。

●まちを自慢してもらいたい

皆さんは自分のまちの事を聞かれた時、どのようなまちなのか自信を持って説明できますか？そして、子供達はどう答えるでしょう？大人になった時、自分のまちを自慢できるようになっていてもらいたい。そう願いながら、子供達に向けた取り組みを今後も続けてまいりたいと思っております。

Ⅶ ブロック連絡会

１．ブロック連絡会開催のねらい

北海道ＰＴＡ連合会は、平成21年度よりブロック連絡会を活用して組織強化事業を展開している。21年度は道Ｐ連の役員と地区役員等が一堂に会してそれぞれの事業についての説明と意見交換を行った。22年度から委員会担当副会長及び地区毎の担当者の配置をお願いし、委員会の充実を図ってきた。

令和３年度は下記の内容で開催した。

〇道Ｐ連事業や委員会の取組
〇ブロック内各地区Ｐ連の活動状況の交流
〇ブロック研修会（講演会など、可能な範囲で開催市町村の会員に呼びかけ、多くの人に参加してもらう。）
〇道Ｐ連や道教委に対しての質問・要望

２．ブロック連絡会の役員構成

☆会　　長　　１名
（地区会長の中からブロック毎に互選～ブロック選出道Ｐ連副会長）
☆副会長　　２名
（地区会長の中からブロック毎に互選～組織連携委員会及び教育・環境委員会を分担）
☆代表子育て委員　　１名
（ブロック内で委員による互選で選出）
☆事務局長　　１名
（ブロック会長と緊密な連絡調整可能な事務局を選任）

３．ブロック連絡会の開催日程及び内容について

（１）第１回ブロック連絡会
＜書面開催＞
①　日　時　令和３年６月12日（土）
②　場　所　ホテルポールスター札幌
③　出席対象　令和３年度総会出席者
④内　容
・自己紹介
・ブロック連絡会の趣旨説明
・ブロック体制の確立、役員構成
・今後の予定等

（２）第２回ブロック連絡会
①日　時　令和３年７月３日（土）
＊委員会・地区事務局長会終了後
②場　所　ホテルポールスター札幌
③出席対象　委員会・地区事務局長会出席者
④内　容　第１回会議の課題の確認等
第３回ブロック連絡会の予定

（３）第３回ブロック連絡会
①日　時　７月～11月のできるだけ早い時期が望ましい。ただしコロナ禍を勘案し開催日時を決定する。
②場　所　各ブロック
③出席対象
・地区役員（会長、組織・連携員会担当者、教育・環境委員会担当者、子育て（広報）委員会担当者、事務局長）
・開催市町村Ｐ連役員等
・道Ｐ連会長（代行）、道Ｐ連各委員会委員長、道Ｐ連事務局
④内　容
・道Ｐ連事業の説明
・各地区の活動の交流、意見交換
・道Ｐ連や道教委等への質問、要望
・ブロック研修会

（４）第４回ブロック連絡会の開催が必要なブロックは、第２回地区事務局長会議終了後、同会場で実施する。
①　出席対象～ブロック会長と地区事務局長

【第２ブロック】

１．日　時　　令和３年11月20日（土）14:00～
２．場　所　　オンライン開催　Zoom
３．参加者　　16名
４．研修内容

第２ブロック連絡会が11月20日（土）にＺＯＯＭでのオンライン開催で行われました。当初、対面・参集しての開催を考えていましたが、コロナ禍ということで、その中でも何とか工夫をしての開催となりました。

２ブロック事務局長の塩原校長先生（宗谷管内Ｐ連）の司会進行により、始めに寺本２ブロック会長（宗谷管内Ｐ連）よりご挨拶をいただき、次に、16名の参加者が自己紹介をしました。

その後、北海道ＰＴＡ連合会について事務局長の平田から説明を行い、道Ｐ連の「組織・連携委

員会」の今年度の取組について、安藤２ブロック副会長（旭川市Ｐ連）から説明を行い、「教育・環境委員会」について、白川２ブロック副会長（稚内市連Ｐ）から、「子育て委員会」については冨樫子育て委員（旭川市Ｐ連）から委員会だよりにより確認がありました。

その後、各地区Ｐ連の活動の様子について参加された皆さんから紹介があり、口頭で交流を行いました。オンライン形式で地区研・子育て研を実施した地区Ｐ連、中止とはなったが、各市町村Ｐ連の様子を紙面交流した地区Ｐ連、行事の日程を短くして実施した地区Ｐ連、地元の特色を活用し、家具や食育の研修に取り組んだ地区Ｐ連などがありました。

休憩を挟み、最後に、研修会を行いました。岡澤史子氏（アンガーマネジメントコンサルタント他）による「知って得するアンガーマネジメント」「怒りにふり回されない術～アンガーマネジメント～」という演題で講演をしていただきました。参加者との話も交えながら、アンガーマネジメントについていろいろとお話をいただき、大変勉強になりました。

約２時間半のブロック連絡会でコロナ禍ということで、今回ＺＯＯＭを使ったオンライン会議となりましたが、その中でもブロック内の各地区が交流でき、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。２ブロックの関係者の皆様に感謝申し上げます。

【第３ブロック】

１．日　時　　令和３年 11 月７日（日）13:00～
２．場　所　　北斗市総合文化センター
３．参加者　　29 名
４．研修内容

第３ブロック連絡会が 11 月７日（日）に北斗市総合文化センター「かなで～る」で行われました。コロナ禍における安全対策として、消毒液の設置、運営委員による検温、マスクを着用して入場、更にソーシャルディスタンス、会場の換気、一人一人に除菌ティッシュを配付しマイク使用後の対応にも気を配るなど、細心の注意を払っての連絡会となりました。

連絡会の内容は、北海道ＰＴＡ連合会菊川会長、第３ブロック干山会長の挨拶に続き、道Ｐ連事務局より「北海道ＰＴＡ連合会の組織と事業等、道Ｐの活動」についての説明。その後、倉持教育・環境委員、京谷子育て副委員長より、今年度の委員会の取組についてご報告がありました。

休憩を挟み各地区（渡島、檜山、函館市）Ｐ連より、今年度の実践発表がありました。

渡島ＰＴＡ連合会からは、10 月 24 日（日）に福島小学校（オンライン開催）で開催された、研究大会について、講演会「誰もが学び続けられるデジタル教育」（講師：株式会社 manabit 代表取締役　藤澤義博氏）と３分科会の内容について発表されました。ＰＴＡ会員の「学びの保障」が出来たという成果や「参集型式」「オンライン型式」のメリットとデメリットを総括する必要があるという課題について発表されました。

檜山ＰＴＡ連合会からは、基本方針をしっかりと定め、子どもたちが安心して生活できる環境づくりを中心に社会通念上必要なルールやマナーなど、普遍・不易な内容を大切にした活動を進めていくことを確認し、来年度の研究大会開催に向け、調整されていることについて発表がありました。更に、江差町、厚沢部町、乙部町、今金町で今年度実施されました講演会についての報告がありました。

函館市ＰＴＡ連合会からは、東山小学校体育館から配信されました、地区研究大会の概要を中心に発表がありました。「学びと行動で未来を拓くＰＴＡ」をスローガンとし、子どもたちの豊かな成長を願い、コロナ禍の今、親としてできることは何かを学ぶことを目的とした実践が紹介されました。更に特徴的な取組として、隔年で両市を行き来している青函ＰＴＡ交流会（今年度青森開催）についての発表もありました。

結びに、渡島教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事：南部晃宏　様より、ＰＴＡ活動を振り返る一つの手法として、「ＰＴＡチェックリスト」を用いた情報交流や協議により、現状の問題意識や解決の方法を模索することの大切さを学びました。

約２時間にわたる非常に有意義な研修となりました。第３ブロック、各地区Ｐ連、市町村Ｐ連の結束力と運営に携わった方々の前向きな姿勢が印象的なブロック連絡会でした。

Ｘ．広報活動研修会・全道広報紙コンクール

１．目的

情報化時代といわれる今日、ＰＴＡ活動における広報の占める役割は、益々重要視されてきている。

広報紙は必要な情報を効率的に会員に伝達すること、また、日常のＰＴＡ活動の様子を広くわかりやすく会員に知らせることが大切である。

その点を踏まえ、広報紙の持つ意義について、一層理解を深めるとともに、効果的な広報紙作成の要領について学びそして実際に作成することにより、ＰＴＡ広報紙がより充実したものとなることを目的とし上記事業を行っている。

２．研修内容

北海道ＰＴＡ連合会では、北海道新聞社との共催により、原則としてブロックごとに広報活動研修会を開催し､「ＰＴＡ広報紙ガイドブック」をテキストとして、必要な情報の選択、効果的な情報伝達のあり方、読みやすい紙面のつくり方や記事の書き方をはじめ、参加者の苦労や工夫などを交流し、広報紙づくりに直結した研修を行う予定であったが、コロナ禍により、全ての地区で中止となりました。

３．　今年度の成果と課題

ＰＴＡ活動の活性化のために、必要な情報を提供し、活動を身近なものにする広報活動は今後も重要視されます。ＰＴＡの会議に参加する人数には限りがありますが、広報紙は会員全員に伝えることが可能です。必要な情報を分かりやすく、そしてタイムリーに伝えることができればＰＴＡ活動は大きく広がります。

次年度も予想されるコロナ禍においても、広報活動の重要性は確かと言えます。ＰＴＡに対する理解と認識を深めるための広報のあり方について、研修の機会を設定し、広報活動の充実・発展を目的として実施してまいります。

広報紙コンクールにつきましても、各ブロックでの研修会は実施できませんでしたが、年１回でも応募可能という要請を今年度も日本ＰＴＡ協議会に聞き入れていただき、各地区ＰＴＡ連合会事務局を通して、各単位ＰＴＡにご案内したところです。ちなみに令和３年度は、

・北見市立南小学校ＰＴＡの「からふる」が佳作を受賞しました。おめでとうございます。

北海道ＰＴＡ連合会では、北海道新聞社との共催により、例年ブロックごとに１会場を原則に広報活動研修会を開催してきました。今年度はコロナ禍により、全ての地区で広報活動研修会が中止になりましたが、今後もコロナ禍での開催を想定されます。「新北海道スタイル」を念頭に置き、中止とせず、できる範囲で工夫・改善を図ることが大切だと考えます。

４．令和３年度広報活動研修会開催予定

ブロック	開催地区	研修会場	研修内容	期日	開催有無
1	石狩管内	石狩教育研修センター		6/23	中止
1	小 樽 市	北海道新聞小樽支店ホール		7/14	中止
2	宗谷管内				中止
3	函 館 市	南北海道教育センター		5/20	中止
4	胆振西部	登別市立西陵中学校		6/15	中止
5	ｵﾎｰﾂｸ西部地区	滝上町文化センター		9/25	中止

５　第３９回全道ＰＴＡ広報紙コンクール

第３９回全道ＰＴＡ広報紙コンクールは、令和３年１月～令和３年１２月の間に発行された広報紙を対象に実施しました。今年度は、地区応募数７０点の中から全道各地区の予備審査を経た５９点の広報紙が集まりました。それぞれの広報紙は、各単位ＰＴＡの特色を生かしながら、今日的課題である子どもの生活習慣、食育、携帯電話、安全・安心の取り組みや周年行事に関連した企画など多種多様な内容が取り上げられていました。

道Ｐ連では、教師代表委員と事務局で一次審査を行い、その後、専門家を含めた審査委員会を構成し、二次審査を行い、各賞を決定しました。

入選作品の中から日本ＰＴＡ全国協議会主催の令和４年度全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールへ応募作品として推薦することになります。

また、令和３年度は、北見市立南小学校ＰＴＡの「からふる」が佳作を受賞しました。

第３９回（令和３年度）全道ＰＴＡ広報紙コンクール
受　　賞　　Ｐ　　Ｔ　　Ａ

○　大　賞　　（３単Ｐ）

北海道知事賞	
北海道新聞社賞	旭川市立青雲小学校ＰＴＡ
北海道教育委員会教育長賞	
北海道新聞社賞	岩見沢市立緑中学校ＰＴＡ
北海道ＰＴＡ連合会会長賞	
北海道新聞社賞	旭川市立中央中学校ＰＴＡ

○　優　秀　賞　　（１５単Ｐ）

(公社)日本ＰＴＡ全国協議会賞	函館市立東山小学校ＰＴＡ
日本教育新聞社賞	旭川市立六合中学校ＰＴＡ
同	北見市立南小学校ＰＴＡ
北海道小学校長会賞	旭川市立東五条小学校ＰＴＡ
同	岩見沢市立第一小学校ＰＴＡ
北海道中学校長会賞	北見市立高栄中学校ＰＴＡ
同	浦幌町立浦幌中学校ＰＴＡ
北海道公立学校教頭会賞	旭川市立新町小学校ＰＴＡ
同	白老町立萩野小学校ＰＴＡ

北海道ＰＴＡ連合会賞　　倶知安町立西小学校樺山分校ＰＴＡ
同　　中富良野町立旭中小学校ＰＴＡ
同　　北見市立小泉小学校ＰＴＡ

北海道ＰＴＡ安全互助会賞　　留萌市立留萌小学校ＰＴＡ
同　　苫小牧市立青翔中学校ＰＴＡ
同　　中札内村立上札内小学校ＰＴＡ

○　審査員特別賞（北海道新聞社賞）　　（２５単Ｐ）

千歳市立北陽小学校ＰＴＡ
小樽市立望洋台小学校ＰＴＡ
旭川市立神居小学校ＰＴＡ
東神楽町立東聖小学校ＰＴＡ
豊富町立兜沼小中学校ＰＴＡ
函館市立昭和小学校ＰＴＡ
北見市立おんねゆ学園ＰＴＡ
帯広市立帯広第一中学校ＰＴＡ
新得町立新得小学校ＰＴＡ
上士幌町立上士幌中学校ＰＴＡ
中札内村立中札内中学校ＰＴＡ
釧路市立大楽毛小学校ＰＴＡ
釧路市立湖畔小学校ＰＴＡ
江別市立大麻東中学校ＰＴＡ
美深町立美深小学校ＰＴＡ
旭川市立西御料地小学校ＰＴＡ
愛別町立愛別小学校ＰＴＡ
留萌市立東光小学校ＰＴＡ
北見市立南中学校ＰＴＡ
帯広市立清川小学校ＰＴＡ
帯広市立稲田小学校ＰＴＡ
音更町立緑南中学校ＰＴＡ
浦幌町立上浦幌学園ＰＴＡ
釧路市立釧路小学校ＰＴＡ
釧路市立共栄小学校ＰＴＡ
（地区割表順）

○　奨励賞　　（１６単Ｐ）

恵庭市立恵庭小学校ＰＴＡ
旭川市立大有小学校ＰＴＡ
愛別町立愛別中学校ＰＴＡ
室蘭市立白蘭小学校ＰＴＡ
浦河町立浦河小学校ＰＴＡ
帯広市立明星小学校ＰＴＡ
広尾町立広尾小学校ＰＴＡ
釧路市立芦野小学校ＰＴＡ
小樽市立長橋小学校ＰＴＡ
旭川市立千代田小学校ＰＴＡ
北斗市立浜分小学校ＰＴＡ
登別市立幌別中学校ＰＴＡ
帯広市立清川中学校ＰＴＡ
鹿追町立鹿追小学校ＰＴＡ
浦幌町立浦幌小学校ＰＴＡ
釧路町立富原小学校ＰＴＡ
（地区割表順）

〈巻末資料〉　令和3年度　道P連役員名簿

敬　称　略

役職	氏名	所属
会長	菊川哲平	2ブロック 上川南部P連
副会長	成田宏介	1ブロック 後志P連
	寺本哲也	2ブロック 宗谷管内P連
	干山毅	3ブロック 函館市P連
	金田貴彦	4ブロック 南空知P連
	吉田哲	5ブロック オホーツク中部地区P連
	後藤一樹	会長指名 石狩管内P連
	山村健史	北海道小学校長会
	小森享	北海道中学校長会
	街道美恵	子育て代表 石狩管内P連

顧問	萩澤教達	前会長 石狩管内P連

監査	小竹雅浩	1ブロック 後志P連
	中野善隆	4ブロック 北空知P連
	岡村金司	5ブロック オホーツク中部地区P連

教師代表委員	鈴木喜代志	組織・連携 小樽市
	東祐史	教育・環境 恵庭市
	安部由里香	子育て 千歳市

ブロック代表子育て委員	小川香織	2ブロック 宗谷管内P連
	京谷明希	3ブロック 函館市P連
	西崎里美	4ブロック 胆振西部P連
	今井亮輔	5ブロック 釧路管内P連

事務局　〒060－0001　札幌市中央区北1条西3丁目　STV時計台通ビル　6階

事務局長	平田弘子	TEL　011－251－6937
事務局次長	松浦宣仁	011－221－7680
事務局次長	出村好孝	FAX　011－210－0929
統括アドバイザー	谷垣德篤	Eメール　info@hokkaido-pta.jp

〈巻末資料２〉　令和３年度　理事 ・ 子育て委員 名簿

敬称略

ブロック	振興局	No.	地区名	理事	子育て委員
1	石狩	1	石狩	須藤孝明	街道美恵
	後志	2	小樽市	廣瀬堅一	池上千世乃
		3	後志	成田宏介	本間由紀子
2	上川	4	上川北部	佐藤政裕	佐々木奈穂子
		5	旭川市	安藤英樹	冨樫真紀子
		6	上川南部	佐々木智一	福山萌子
	宗谷	7	稚内市	白川哲也	山口莉菜
		8	宗谷	寺本哲也	小川香織
	留萌	9	留萌	新名功基	鳥羽志津子
3	渡島	10	函館市	干山毅	京谷明希
		11	渡島	佐藤敦宏	堀俊至
	檜山	12	檜山	倉持篤	山本美雪
4	空知	13	南空知	金田貴彦	高畠康典
		14	北空知	中野善隆	茶山友紀子
	胆振	15	胆振東部	髙橋憲司	村田美香
		16	胆振西部	谷田司	西崎里美
	日高	17	日高	田村綾太	斉藤小津恵
5	オホーツク	18	オホーツク東部	佐藤孝洋	山崎七恵
		19	オホーツク中部	吉田哲	石川勝義
		20	オホーツク西部	伊藤篤	大西晋吾
	十勝	21	帯広市	谷保寿彦	松本浩子
		22	十勝	辻本二三人	水間幸市
	釧路	23	釧路市	濱口憲太	金田ひとみ
		24	釧路	坪井智裕	今井亮輔
	根室	25	根室	富田康隆	樫見真奈美

〈巻末資料３〉　北海道ＰＴＡ連合会　地区割表

	振興局	地区		市町村	市町村数
1	石狩	1	石狩管内	当別町・石狩市・江別市・新篠津村・千歳市・恵庭市 北広島市	7
	後志	2	小樽市		1
		3	後志	積丹町・神恵内村・古平町・余市町・泊村・共和町・仁木町 赤井川村・倶知安町・京極町・喜茂別町・留寿都村・真狩村 ニセコ町・岩内町・蘭越町・寿都町・黒松内町・島牧村	19
2	上川	4	上川北部	士別市・鷹栖町・比布町・和寒町・剣淵町・名寄市・下川町 美深町・中川町・音威子府村・幌加内町	11
		5	旭川市		1
		6	上川南部	富良野市・占冠村・南富良野町・中富良野町・上富良野町 美瑛町・東神楽町・東川町・愛別町・上川町・当麻町	11
	宗谷	7	稚内市		1
		8	宗谷管内	豊富町・猿払村・浜頓別町・中頓別町・枝幸町・利尻町 利尻富士町・礼文町・幌延町	9
	留萌	9	留萌管内	留萌市・増毛町・小平町・苫前町・羽幌町・初山別村 遠別町・天塩町	8
3	渡島	10	函館市		1
		11	渡島	北斗市・長万部町・八雲町・森町・鹿部町・七飯町 木古内町・知内町・福島町・松前町	10
	檜山	12	檜山	上ノ国町・江差町・厚沢部町・乙部町・今金町・せたな町 奥尻町	7
4	空知	13	南空知	岩見沢市・栗山町・由仁町・長沼町・南幌町・夕張市 美唄市・三笠市・月形町	9
		14	北空知	砂川市・上砂川町・浦臼町・新十津川町・歌志内市・深川市 奈井江町・滝川市・雨竜町・妹背牛町・秩父別町・沼田町 芦別市・赤平市・北竜町	15
	胆振	15	胆振東部	苫小牧市・安平町・むかわ町・厚真町・白老町	5
		16	胆振西部	室蘭市・登別市・伊達市・豊浦町・洞爺湖町・壮瞥町	6
	日高	17	日高地区	えりも町・様似町・浦河町・新ひだか町・新冠町・平取町 日高町	7
5	オホーツク	18	オホーツク東部地区	網走市・斜里町・清里町・小清水町・大空町	5
		19	オホーツク中部地区	北見市・置戸町・訓子府町・佐呂間町・美幌町・津別町	6
		20	オホーツク西部地区	紋別市・遠軽町・湧別町・雄武町・興部町・西興部村・滝上町	7
	十勝	21	帯広市		1
		22	十勝管内	広尾町・大樹町・中札内村・更別村・豊頃町・幕別町 芽室町・清水町・音更町・池田町・浦幌町・本別町 士幌町・鹿追町・新得町・上士幌町・足寄町・陸別町	18
	釧路	23	釧路市		1
		24	釧路管内	白糠町・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村	7
	根室	25	根室地方	根室市・羅臼町・別海町・中標津町・標津町	5

合計　178

〈巻末資料4〉 北海道ブロック研究大会開催地区一覧

回	年度	開催地区	開催日	備考	回	年度	開催地区	開催日	備考
1	S 29	札　幌　市	9/15.16		31	59	紋　別　市	10/20.21	5
2	30	小　樽　市	10/21.22	1	32	60	倶知安町	10/19.20	1
3	31	岩　内　町	9/ 7.8	1	33	61	札　幌　市	6/ 24	
4	32	深　川　町	9/ 1.2	2			旭　川　市	8/22.23	全国大会
5	33	小　樽　市	7/26.27	全国大会	34	62	函　館　市	10/ 1.2	3
6	34	帯　広　市	9/ 5.6	5	35	63	静　内　町	10/ 7.8	4
7	35	滝　川　市	9/10.11	4	36	H 1	釧　路　市	10/20.21	5
8	36	網　走　市	9/ 9.10	5	37	2('90)	札　幌　市	10/26.27	
9	37	室　蘭　市	9/15.16	4	38	3	千　歳　市	10/12.13	1
10	38	函　館　市	9/22.23	3	39	4	稚　内　市	9/19.20	2
11	39	旭　川　市	9/13.14	2	40	5	函　館　市	11/ 2.3	3
12	40	札　幌　市	9/ 5.6		41	6	岩見沢市	10/ 1.2	4
13	41	釧　路　市	9/17.18	5	42	7('95)	札　幌　市	8/20.21	全国大会
14	42	岩見沢市	9/ 9.10	4	43	8	帯広市他	10/12.13	5
15	43	北　見　市	9/ 7.8	5	44	9	小　樽　市	10/11.12	1
16	44	札　幌　市	8/ 7.8	全国大会	45	10	旭　川　市	10/10.11	2
17	45	名　寄　市	9/12.13	2	46	11	札　幌　市	10/16.17	
18	46	函　館　市	9/18.19	3	47	12('00)	江　差　町	10/14.15	3
19	47	苫小牧市	9/ 9.10	4	48	13	苫小牧市	10/13.14	4
20	48	帯　広　市	9/ 8.9	5	49	14	北　見　市	10/ 5.6	5
21	49	小　樽　市	10/12.13	1	50	15	札　幌　市	10/25.26	
22	50	旭　川　市	10/11.12	2	51	16	大　雪　圏	8/27.28	全国大会
23	51	函　館　市	10/ 3.4	3	52	17('05)	千　歳　市	10/22.23	1
24	52	小　樽　市	10/ 29	1	53	18	函　館　市	9/30,10/1	3
		札　幌　市	8/26.27	全国大会	54	19	札　幌　市	10/20.21	
25	53	美　唄　市	10/15.16	4	55	20	芦　別　市	10/ 4.5	4
26	54	根　室　市	9/22.23	5	56	21	釧　路　市	10/3,4	5
27	55	江　別　市	10/18.19	1	57	22	余　市　町	9/18,19	1
28	56	旭　川　市	10/17.18	2	58	23	札　幌　市	10/1,2	
29	57	函　館　市	10/ 3.4	3	59	24	稚　内　市	10/6,7	2
30	58	室　蘭　市	10/ 1.2	4	60	25	函館・北斗市	10/5,6	3

回	年度	開催地区	開催日	備考	回	年度	開催地区	開催日	備考
61	26	登　別　市	10/11.12	4	92				
62	27	札　幌　市	8/21,22	全国大会	93				
63	28	帯　広　市	10/ 8. 9	5	94				
64	29	小　樽　市	10/ 7. 8	1	95				
65	30	旭　川　市	10/ 6. 7	2	96				
66	R元	札　幌　市	10/12.13		97				
67	2	函　館　市	10/3.4(中止)	3	98				
68	3	岩見沢市	10/9 (中止)	4	99				
69	4	北　見　市	10/8,9	5	100				
70	5	札　幌　市	10/21・22		101				
71	6	千　歳　市		1	102				
72					103				
73					104				
74					105				
75					106				
76					107				
77					108				
78					109				
79					110				
80					111				
81					112				
82					113				
83					114				
84					115				
85					116				
86					117				
87					118				
88					119				
89					120				
90					121				

91					122				

〈巻末資料５〉　地区ＰＴＡ連合会事務局一覧

敬称略

ブロック	振興局	No.	地区名	事務局長	事務局	〒	住所	TEL	学校数 小	中	併・他	計
1	石狩	1	石狩管内	伊東 優子	当別町立西当別小	061-3776	当別町太美町1481	0133-26-2170	60	35	3	98
	後志	2	小樽市	及川 年彦	小樽市立西陵中	047-0033	小樽市富岡2丁目26－1	0134-23-4204	17	12	0	29
		3	後志	小竹 雅浩	神恵内村立神恵内中	045-0301	神恵内村大字神恵内村字横澗11－7	0135-76-5301	40	24	0	64
2	上川	4	上川北部	鈴木 貴之	音威子府村立音威子府小中	098-2501	音威子府村音威子府451	01656-5-3031	23	16	2	41
		5	旭川市	吉﨑 隆	P連事務所	070-0036	旭川市6条通5丁目　日章小内	0166-23-2916	49	23	3	75
		6	上川南部	本田 明路	南富良野町立南富良野中	079-2400	南富良野町字幾寅1052	0167-52-2410	33	14	3	50
	宗谷	7	稚内市	坂本 孝行	稚内市立稚内東小	097-0002	稚内市潮見5丁目1－5	0162-33-4341	9	5	2	16
		8	宗谷管内	塩原 悟	幌延町立幌延小	098-3222	幌延町東町25	01632-5-2216	21	12	3	36
	留萌	9	留萌管内	小柳 豊	小平町立小平小	078-3301	小平町小平町351－2	0164-56-2822	16	10	1	27
3	渡島	10	函館市	中村 和代	P連事務所	041-0835	函館市東山2丁目3-1　東山小内	0138-55-6110	40	18	2	60
		11	渡島	福井 博志	北斗市立谷川小	049-0131	北斗市富川2丁目2−1	0138-73-2070	39	18	3	60
	檜山	12	檜山	若林 則幸	乙部町立乙部小	043-0103	乙部町緑町641－1	0139-62-2021	20	10	0	30
4	空知	13	南空知	野田泰史	岩見沢市立北村小	068-1212	岩見沢市北村中央4725番地	0126-56-2201	25	20	0	45
		14	北空知	納口 卓	深川市立北新小	074-0028	深川市一巳町字一巳2046	0164-23-3480	31	20	2	53
	胆振	15	胆振東部	柴田 知巳	苫小牧市立苫小牧東小	053-0018	苫小牧市旭町1丁目7−10	0144-32-6231	35	23	1	59
		16	胆振西部	松岡 賢晃	壮瞥町立壮瞥中	052-0101	壮瞥町字滝之町420番地	0142-66-2367	31	18	2	51
	日高	17	日高地区	玉手 広昭	新ひだか町立静内小	056-0004	新ひだか町静内緑町3丁目5－1	0146-42-1561	26	15	0	41
5	オホーツク	18	オホーツク東部地区	吉田 昌広	網走市立網走小	093-0041	網走市桂町1丁目1－1	0152-43-4391	14	10	2	26
		19	オホーツク中部地区	佐藤 亮	北見市立緑小	090-0055	北見市緑町2丁目1－1	0157-36-2688	33	19	1	53
		20	オホーツク西部地区	佐藤 文昭	西興部村立西興部小	098-1501	西興部村西興部240	0158-87-2230	28	15	1	44
	十勝	21	帯広市	新川 和範	P連事務所	080-0808	帯広市東8条南11丁目1　柏小内	0155-21-3580	26	14	0	40
		22	十勝管内	長澤 啓二	鹿追町立鹿追小	081-0222	鹿追町東町3丁目2	0156-66-2139	56	32	1	89
	釧路	23	釧路市	小向 聡	P連事務所	085-0826	釧路市城山1丁目14-35　城山小内	0154-41-1502	24	13	2	39
		24	釧路管内	武田 進一	弟子屈町立弟子屈小	088-3211	弟子屈町中央2丁目1－1	015-482-2044	23	17	5	45
	根室	25	根室地方	増田 慎一	別海町立西春別中	088-2573	別海町西春別本久町1	0153-77-2061	20	16	4	40
計									739	429	43	1,211

◎校長　○P連事務所事務局長　◇教頭

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
ブロック	後志P連	宗谷管内P連	函館市P連	南空知P連	オホーツク中部地区P連
事務局長	小竹　雅浩	塩原　悟	中村　和代	野田　泰史	佐藤　亮

編　集　後　記

令和３年度の北海道ＰＴＡ連合会研究集録が完成いたしました。

内容としましては、委員会の研究活動、各地区ＰＴＡ連合会研究大会･子育て研修会、北海道ブロック教育講演会、北海道の特色ある実践事例発表などを掲載いたしました。昨年に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、日本ＰＴＡ北海道ブロック研究大会南空知・岩見沢大会は中止となり、開催要項のみの掲載となりました。

また、各地区ＰＴＡ連合会研究大会・子育て研修会、ブロック連絡会についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの地区で中止となり、概要や講師一覧など、約半数の掲載となってしまいました。そのような中、新北海道スタイルに則り開催されました地区ＰＴＡ連合会研究大会、子育て研修会につきましては、道Ｐ連のホームページに掲載しております。

委員会は、３つの委員会で今日的な課題に視点を当てて具体的な研究を進め、今後、実施される予定の全道大会の提言準備、各地区で実施された活動内容の交流、今後の方向性などについて、研究を推進してまいりました。

全道広報紙コンクールにつきましても、その概要を掲載いたしました。巻末には資料として、道Ｐ連役員名簿、理事・子育て委員名簿、地区Ｐ連事務局一覧などを掲載いたしました。

今回の研究集録の発刊にあたり、編集を担当されました、教師代表委員の皆様、原稿等をお寄せいただきました地区ＰＴＡ連合会事務局の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和４年３月

北海道ＰＴＡ連合会　　研究集録

発　　行　　北海道ＰＴＡ連合会
〒０６０－０００１
札幌市中央区北１条西３丁目　ＳＴＶ時計台通ビル６階
TEL　０１１－２５１－６９３７　　FAX　０１１－２１０－０９２９
ホームページアドレス　http://www.hokkaido-pta.jp
Ｅメールアドレス　　info@hokkaido-pta.jp

発行責任者　　菊　川　哲　平　北海道ＰＴＡ連合会会長
編集責任者　　平　田　弘　子　北海道ＰＴＡ連合会事務局長
編 集 担 当　　鈴　木　喜代志　委員会教師代表（組織･連携担当－小樽市立桂岡小学校長）
（執　筆　者）　東　　祐　史　委員会教師代表（教育･環境担当－恵庭市立 柏 小学校長）
安　部　由里香　委員会教師代表（子 育 て 担当－千歳市立泉沢小学校長）
松　浦　宣　仁　北海道ＰＴＡ連合会事務局次長
出　村　好　孝　北海道ＰＴＡ連合会事務局次長
谷　垣　徳　篤　北海道ＰＴＡ連合会統括アドバイザー

表 紙 写 真　「岩見沢の百餅（ひゃっぺい）祭り　」

印　刷　所
（表紙・製本）　あべ印刷産業株式会社　札幌市中央区円山西町７丁目－１－１５
TEL　０１１－６２１－４１４９